

コープデリグループ サステナビリティレポート

Co-opdeli group Sustainability Report

2026



コープデリグループSDGsの取り組み

コープデリグループは半世紀以上にわたり

人と自然が共生する社会と、平和な未来づくりに取り組んでまいりました。

今後も皆さまとともに、豊かな未来をはぐくむために

新たな試みに挑戦していきます。

CONTENTS

04 トップメッセージ

06 特集対談

誰一人取り残さない社会に向けて

日本赤十字社 副社長 × 代表理事 理事長
鈴木 俊彦さん 熊崎 伸

12 サステナビリティ活動のあゆみ

14 SDGsとコープデリグループ

SDGs重点課題と2025年度の取り組み

16 01 持続可能な生産と消費のために

持続可能な生産と消費のために、
商品とくらしのあり方を見直していきます

24 02 安心して暮らせる地域づくりのために

誰もが安心してくらし続けられる
地域社会づくりに貢献します
コープみらい／いばらきコープ／とちぎコープ
コープぐんま／コープながの／コープデリにいがた

32 03 人にやさしく誇りが持てる組織を目指して

一人ひとりの人権と多様性が尊重され、
誰もが安心して働ける組織づくりを進めます

34 04 100年後の地球のために

自然の豊かさを未来へつなぎ、
地球温暖化対策を進めます

38 05 世界中の人々の平和で健康な生活のために

人権が守られ、飢餓や貧困のない
平和な世界の実現のために活動します

42 サステナビリティデータ

47 ガバナンス・内部統制

48 コープ(生協)について

49 コープデリグループについて

50 コープデリグループの事業と会員生協の活動

編集方針

『コープデリグループ サステナビリティレポート2026』は、SDGs(持続可能な開発目標)を指針とし、コープデリグループの理念・ビジョンと関連付けながら主な取り組みを紹介し、「コープデリグループのSDGs重点課題～2030年までの長期目標と中期方針～」で掲げた目標と進捗状況を報告します。

【対象者】組合員・消費者、職員、社員、取引先、地域社会、未来社会

【対象期間】特に断りのない限り2025年度(2025年3月21日～2026年3月20日)です。

【対象範囲】コープデリグループ共通の取り組み、会員生協独自の取り組み、コープデリ連合会としての取り組みを対象としています。

【報告数値】数値は端数処理をしているため、合計値が合わない場合があります。

【発行年月】2026年7月

コープデリグループ
サステナビリティサイト



サステナビリティサイト
動画ギャラリー



コープデリグループの
サステナビリティInstagram



未来 つなげよう



沖縄・伊平屋島 産地交流・研修会

「美ら島応援もずくプロジェクト」の生産に関わる人々との相互交流とともに、海岸清掃の実施を通じて島の自然環境を保護する活動の理解を深めます。

Message from the President

トップメッセージ

「未来へつなごう」をスローガンに
協同と助け合いの力で
地域共生社会の実現を目指します。

コープデリ生活協同組合連合会
代表理事 理事長

熊崎 伸

コープデリグループは、持続可能な社会の実現に貢献するため、「SDGs重点課題～2030年までの長期目標と中期方針～」を策定し、「未来へつなごう」のスローガンのもと、さまざまな取り組みを進めています。私たちは協同組合の特徴と強みを生かし、事業と活動の総合力で食とくらしを支えるために、さまざまな社会課題の解決に挑んでまいります。

世界では、中東をはじめ各地で紛争・戦争が激化し、軍事的緊張はかつてないほど高まっています。これは決して遠い地域の話ではなく、世界的な物流の遅延や混乱はさらなる物価高騰を招き、私たちのくらしへの大きな脅威となっています。生協は、これまでも組合員とともに平和を願う取り組みを続けてきました。2026年核兵器不拡散条約(NPT)再検討会議には、生協代表団にコープデリ連合会として参加し、核兵器廃絶を強く訴えました。平和とは、あたりまえの日常が続くこと。これからも、次世代に平和のバトンをつなぐ取り組みを前進させてまいります。

一方、国内では近年の酷暑に代表される気候変動や資材価格の高騰、生産者の高齢化・後継者の不足など、農畜水産業を取り巻く環境は厳しさを増しています。安全で安定した食品供給を実現するためには、生産者の皆さまが将来にわたり安心して生産できる環境づくりが不可欠です。コープデリ

グループでは、組合員が生産者の想いやこだわりを知り、応援する取り組みを進めてきました。その1つが2025年度から開始した「JAつがる弘前りんご生産者サポート」です。組合員の皆さまから会費制のサポーターを募集し、苗木の植樹など産直産地の生産者を応援しています。こうした取り組みをさらに広げ、持続可能な生産と消費の実現とSDGsの達成に貢献します。

関東信越6生協が加盟するコープデリ連合会は、会員生協の宅配や店舗運営の本部機能を担い、商品調達や物流、システム、人事など幅広い分野で共同化を進め、事業連携の要としての役割を果たしてまいりました。会員生協のコープぐんまが創立70周年を迎えたことは、私たちの取り組みの歴史の深さを物語るものです。社会環境が刻々と変化する中でも、積み重ねてきた連帯を基盤に、会員生協の事業や活動を支え、より豊かな社会づくりに貢献します。これからも生産者・取引先・行政・諸団体の皆さまとのパートナーシップを大切に、気候変動への対応、資源循環の推進、人権を尊重した調達・事業活動、災害時にも供給を維持できる事業基盤の強化などに取り組みます。組合員のくらしに貢献し、「誰ひとり取り残さない」社会の実現に向け、「ともに」の力で笑顔の明日を迎えられる社会を目指してまいります。

コープデリグループ理念

CO-OP

ともに はぐくむ くらしと未来

ビジョン2035

食べるしあわせ、自分らしいくらし

「ともに」の力で、笑顔の明日を

私たちは、助け合いの心と協同の力が生み出す「ともに」の力で
未来をきりひらき、誰ひとり取り残さない社会を創ります

誰一人取り残さない社会に向けて



日本赤十字社

副社長 鈴木 俊彦さん

コープデリ生活協同組合連合会

代表理事 理事長 熊崎 伸

コープデリグループと日本赤十字社は、人のいのち、健康、尊厳を守り、誰一人取り残さない社会を目指して活動してきました。社会課題が複雑化し、地域の支え合いの基盤が一層重要となるなか、共通する理念を起点に、災害支援や防災・減災、平和への願い、地域のつながりの再構築について、日本赤十字社の鈴木副社長に、生協への期待と今後の協働の可能性を伺いました。ともに生み出す社会的価値と、持続可能な地域社会への展望を見つめます。

○ 誰一人取り残さない思いの共通点

熊崎 まずはじめに、生協と赤十字がどういった想いを持った組織なのかを確認したいと思います。そもそも生協は設立当初から、誰一人取り残さない、皆が幸せになる豊かなくらしのために活動してきました。私自身、生協はどんな組織かと尋ねられたとき「助け合いの組織です」とお答えすることが多くあります。赤十字の理念や国内外での

活動には、生協と近いものがあると想像していますが、いかがですか。

鈴木 私も赤十字と生協は、根っここの部分で通じるところがあると思います。日本赤十字社は「苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守ります」という使命を掲げています。支援を必要とする人を中心に置き、誰一人取り残さないように、命と健康と尊厳を守っていくことが我々の決意で

もあり、大切にしてきたことでもあります。
また「救う」は、救う人、救われる人が一方的な関係
ではありません。相互に入れ替わることもあり、そ
れは助け合い精神にも通じ、理念も含めて生協と
赤十字は親和性のある組織だと改めて思います。

が寄稿で、苦しんでいる人の目の前の姿だけでな
く、その背景にあるくらしや、これからの人生まで想
像しなければ、真に実効ある支援にはつながらない
と書かれていたのを拝見し、深く共感しました。

鈴木 それは支援の現場で、私たちが常に心に置かなけれ
ばならないことです。今、目の前で苦しんでいる方
の姿は、その人の一場面にすぎません。そこに至る
までの生活があり、これから先の人生もあります。そ
うした全体像に思いを致しながら支援しなければ、
真に実効ある支援にはならないのです。

○ 本当の意味での支援とは

熊崎 日本赤十字社のミッションステートメントに「常に
想像力を持って行動します」とあります。鈴木さん

//////////////////// 数字で見る日本赤十字社 //////////////////////

赤十字は、災害や紛争、病気や事故などで苦しむ人を支える世界的な人道ネットワークです。日本赤十字社は、その
一員として日本で活動する組織で、その活動は、災害時の救護だけでなく、献血、救急法講習、防災・減災、こころの
ケアなど、私たちのくらしに身近なところにも広がっています。

2027年に
150周年



「明治時代から続く、助け合いの歴史」
日本赤十字社の起源は、西南戦争に
おいて政府による救いの手の届かな
い戦傷者の姿に心を痛めた佐野常民
が、一人でも多くのひとを救うために
博愛社を創設したことに遡ります。

赤十字の
7原則



人道、公平、中立、独立、奉仕、単一、
世界性。
1965年にオーストリア・ウィーンで
開催された第20回赤十字国際会議
で赤十字7原則が宣言されました。
「人道」が赤十字の基本となり、他
の原則は「人道」を実現するために
必要となるものです。

191の
国と地域



世界の赤十字社・赤新月社は現在、
191の国と地域に広がっています。
各国の赤十字社・赤新月社は「命と健
康を守る」「苦痛を軽減する」「人間の
尊厳を守る」という目的のために幅
広い活動を行っています。



赤十字の
3つのマーク

赤十字マークは、赤十字の創設者アンリー・デュナンの祖国であるスイ
スに敬意を表して、スイス国旗の配色を逆にしたものが基になってい
ます。多くのイスラム教国は、赤十字の代わりに「赤新月」を使用し、ま
た万国共通マークとして「レッドクリスタル」があります。

「赤十字マーク」、「赤新月マーク」、「レッドクリスタル」

「赤十字マーク」は、スイスに敬意を表するために、
スイス国旗の配色「赤地に白い十字」を反転して「白地
に赤い十字」としたものです。多くのイスラム教国は、
赤十字の代わりに「赤新月」を使用していますが、使用
に際しての条件、効力などは「赤十字」とまったく同一
です。

また、2007年1月14日にジュネーブ条約の第3追
加議定書が発効し、「赤十字」と「赤新月」に加えて、新

たな標章が追加されました。新たな標章は、白地に赤
いひし形を配したもの（レッドクリスタル）となってい
ます。なお、各国の赤十字社を表すマークとして使用
する場合には、レッドクリスタルの中にその国独自の
マークを入れることもできます。



赤十字



赤新月



レッドクリスタル

熊崎 本当に、支援する側の型に相手を当てはめるのではなく、その人の痛みや苦しみを受け止め、今何を必要としているのかを見極めながら、支援のあり方を考えていくことが大切だと思います。

○ 赤十字の活動を貫く7原則

鈴木 赤十字の強みは世界191の国と地域に赤十字社が置かれ、そのネットワークで助け合うことができることです。武力紛争のときはもちろん、自然災害にも、まずは地元の赤十字社が動き、その上で各国の赤十字社や連合体であるIFRC(国際赤十字・赤新月社連盟)に支援を要請し、日本赤十字社も必ずそれに応え、支援をします。

熊崎 紛争当事国同士でも、両国に赤十字社が存在しているので、犠牲者が出たら両方の支援に入るのですね。

鈴木 赤十字の7原則(人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性)は、中心に人道が置かれていますが、非常に大切なのは公平・中立です。どのような勢力にも赤十字は加担しません。傷ついている人がいれば、両方に支援を行います。どれほど国際関係が複雑になっても、本当に実効性のある取り組みをするには、公平・中立をいかに守り抜くかがポイントだと考えています。

熊崎 赤十字マークもいくつかありますね。違いを教えてください。

鈴木 赤十字マークは本部の置かれているスイスの国

旗を反転させたものです。ただキリスト教を想起させることから、イスラム圏では赤新月という三日月のマークを使用しています。また万国共通の白地に赤いひし形を配した「レッドクリスタル」もあります。

熊崎 ジュネーブ条約で赤十字マークを掲げた病院や救護員は、いかなる場合も攻撃してはならないという国際ルール(保護標章)があるそうですね。一方でイランやガザでは赤十字のスタッフが攻撃されているともお聞きしています。

鈴木 おっしゃる通り、赤十字のスタッフが攻撃され、犠牲者も出ています。支援する人たちが攻撃を受けて支援ができなくなることは、絶対にあってはならないことです。攻撃に抗議をする意味で、ICRC(赤十字国際委員会)とIFRCが「紛争地で続く人道支援要員殺害への強い憤り」という共同声明を出しました。日本赤十字社も外務省に同様の要請を出しています。こういったことに抗議の意を表していくことも、国際人道法(IHL)を守る上で重要なことです。

○ 被災地に最初に入り、最後までいる

熊崎 実際に、災害の被災地ではたくさんの赤十字の皆さんがご活躍されていますね。

鈴木 赤十字は被災地に最初に入り、最後までいることをモットーとしています。最初は救護班が駆けつけ、傷ついている人たちを医療の力で支援しま

//////////////////// 数字で見る生活協同組合 //////////////////////

生協の
3つの柱

生協は、一人ひとりの消費者がくらしのさまざまな願いを協同し、助け合いながら実現してゆく消費者の組織です。一人ひとりが「出資金」を出し、事業や活動の「運営」に参加し、「利用」します。



出資



利用



運営

3,000万人
の組合員

日本の生協の組合員数は3,000万人を超え、実に日本全体の3分の1以上の世帯が生協に加入している計算になります。*



日本の生協の総事業高
3.8兆円

生協により事業内容は異なりますが、宅配や店舗などの商品供給事業のほか、共済や福祉、医療などさまざまな種類の事業をあわせると、これだけの規模となります。*



※「第75回日本生協連通常総会参考資料集」2024年度推計値より。

す。発災後、時間が経つと、こころのケアなど、日常生活に近い支援が必要とされますので、どのように手を差し伸べたらいいかを考え、活動します。現場を離れるのは、支援が完了した最後のときとしています。

熊崎 私たち生協も、被災地の支援は伴走型と言っています。赤十字と同じように最初に支援に来たのは生協だった。そして最後まで支援の場にいたのも生協だった、と言われるように頑張っていきたいと考えています。



鈴木 人の生活を中心に置くという意味で、生協の活動の考え方と通ずるところがあります。

熊崎 そうした息の長い支援を支えているのが、組合員から託された募金でもありますね。

〇 組合員の思いを支援の力に

熊崎 日本赤十字社へは、組合員からの募金をお届けしたこともあります。募金に関して、組合員からは「現地の人たちの役に立つ使い方をしてくれ、それを報告してくれるので安心」という声を一番多くいただきます。それぞれの募金がどう使われたかをご報告いただき、それを組合員に伝え、また募金にご賛同いただけるという良い循環につながっています。

鈴木 コープデリの組合員さんにはたくさんのご支援をいただき、本当に感謝をしています。紛争地や被災地で活動をするための原動力になっているのが、皆さんからいただくさまざまなご寄付です。エンジンに例えれば、ガソリンとなるのは皆さんからのご寄付やボランティアによる人の力です。

熊崎 募金が多く寄せられるのは、組合員の温かな気持ちはもちろんですが、きちんと結果をお返しいただいているからだと思います。

また、今は助ける側にいても、いつ助けられる側になるかはわからない。だから今できる支援をしようと考えている人が多いような気がします。

鈴木 募金の話になりましたので、安心していただく意味も含めて、その中身をご説明します。災害時に募る義援金は、全額被災地にお届けするものです。日本赤十字社は窓口となるだけで、私たちの活動の資金とはしていません。一方、活動資金、海外救援金など、赤十字の活動のためにお寄せいただいたご寄付は、さまざまな活動に役立たせていただいています。義援金は確実に被災地にお届けします。あわせて、赤十字の活動へのご協力という視点でもお考えいただくとありがたいです。

熊崎 被災者支援のための義援金はもちろんですが、支援が長期化した際には、相手が今必要とする支援に活用できることは大切です。

鈴木 赤十字は最後までいると申し上げましたが、令和6年能登半島地震でも発災から時間が経つにつれて、求められることが医療から変化していきます。例えば、心理社会的支援であるこころのケアなど、日常生活に近づいた支援が求められます。そういった支援は医療の専門家でなくても、いろいろなボランティアの方々に成り立っています。

熊崎 私どもも、能登でみんなでお茶を飲んで交流するようなサロン活動を行っています。誰もが知っている赤十字と一緒に活動を行うと、現地の皆さんも安心しそうですね。

鈴木 単独で行くよりも、もっと大きな力になりそうです。チームを組んで行くというのはいいアイデアですね。



○ 防災・減災への取り組み

熊崎 ま た、このような災害が起きた後の支援はもちろんですが、起きる前の備えも同じくらい大切です。

鈴木 災害が起きる前にいろいろな備えをしておくことは、本当に大切です。日本赤十字社では、長年、各支部で救急法や水上安全法など各種の講習を行ってきました。

実は、2026年は講習事業100周年です。生協と何か共同開催の取り組みができれば、さらに活動が広がっていく気がします。

熊崎 私たちも組合員とともに防災・減災の取り組みを行っています。組合員が考えたクイズやゲームなど、子どもも楽しめるプログラムもありますので、一緒にできることがあるのではないのでしょうか。

鈴木 日本赤十字社でも、「まだ大丈夫」「自分は大丈夫」という避難をためらわせる心の働き（認知バイアス）を、「バイアス妖怪」と例えて、子どもにも分かるように伝えています。

そういうことも一緒にやっていくと、活動が広がって効果も出てきそうですね。

○ 核兵器廃絶への取り組み

熊崎 命 を守るという意味では、災害への備えだけでなく、戦争や核兵器の問題にも向き合う必要があります。赤十字では平和活動もされています。

鈴木 平和活動で象徴的なのは核兵器廃絶への取り組みです。核兵器が使用されると、赤十字が使命とする支援ができなくなります。それは赤十字の存在の否定にもつながります。

核兵器は人間の命と健康、尊厳の否定、赤十字の理念の否定であり、その存在は決して容認できません。これは国際赤十字、そして日本赤十字社としても一貫して訴え続けていることでもあります。

熊崎 生協としても、核兵器廃絶と戦争のない平和な世界を目指し、継続して活動しています。2026年4月のNPT（核兵器不拡散条約）再検討会議にもニューヨーク国連本部へ被爆者の方々とともに代表を派遣し、被爆国日本として活動してきました。

鈴木 それは素晴らしいですね。2023年のG7広島サミットでは、ICRC総裁と日本赤十字社社長との連名で、「破滅的な結末を避けるために：もう二度と核兵器が使われることがないよう、今こそ行動すべき」という共同声明を出しました。こういったあらゆる機会を捉えて、核廃絶に向けた取り組みを行っています。

//////////////////// コープデリグループの被災地支援 //////////////////////

2024年1月1日に能登半島を襲った地震、そして同年9月の記録的な大雨。

震災直後から現在まで、コープデリグループは被災地に寄り添った支援を続けています。

詳細はこちら



コープいしかわへの支援

被災地域を長期的に支援し復興につなげるため、被災地の生協であるコープいしかわへ、コープデリグループから6人の職員が2期にわかれ、それぞれ1年間出向し、配達などの業務を担いました。

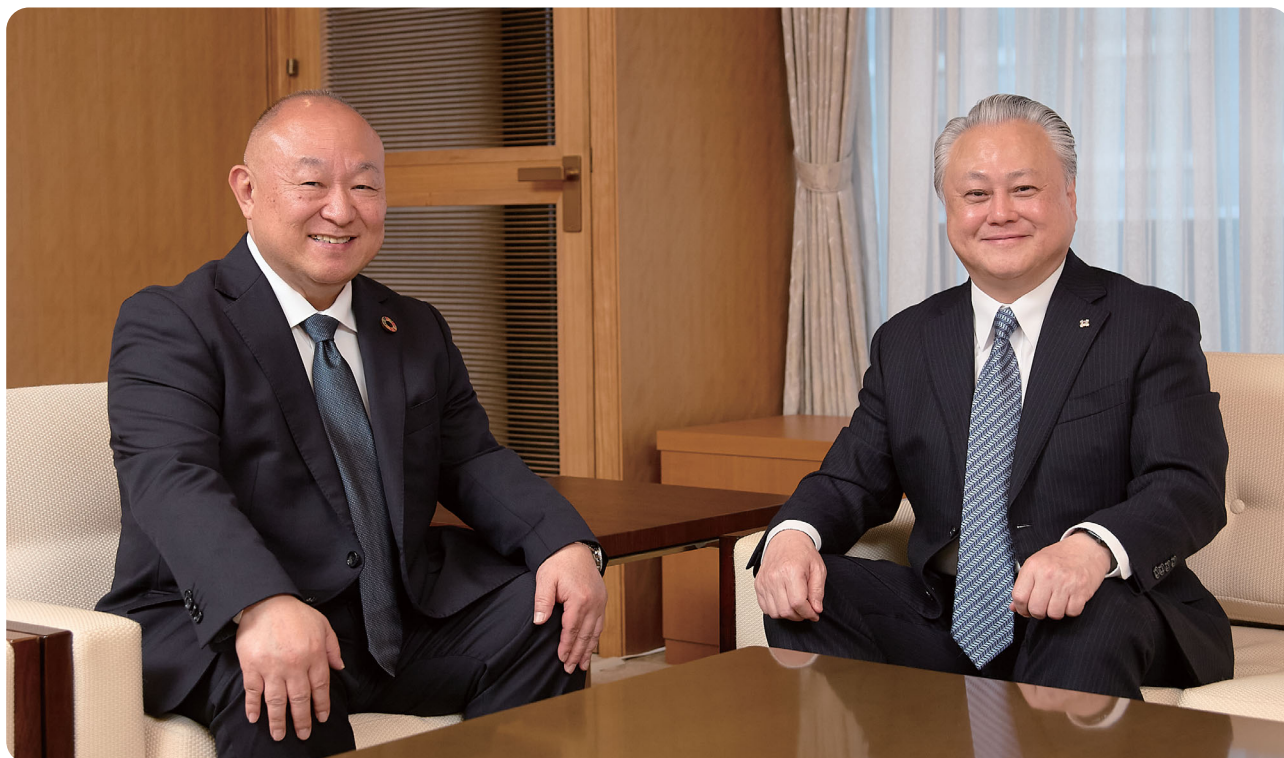


被災地への支援

能登では、住み慣れた家や地域を離れざるを得ないなど、つながりが途切れ、孤立・孤独の懸念が高まっています。地域の方が集まり交流する場をつくる活動を行っています。



※組合員による募金については44ページをご覧ください。



○ 変わる社会の中で 生協に期待すること

熊崎 命 と尊厳を守るという課題は、国際社会だけでなく、私たちの地域の中にもあります。冒頭にお話した鈴木さんの寄稿の中では、子どもの貧困など地域の課題への対策を考えていかなければいけないことも書かれていました。

鈴木 人口減少とそれに伴う地域の変容が深刻な問題となっています。そこには2つの側面があります。1つは地域の結びつきの希薄化、もう1つは、地域を支える地方自治体も人口減少の影響で力が落ち、多様な業務に対応しにくくなっています。地域や人のつながりの脆弱性が表面化するのが災害時です。普段から強靱な組織、地域をつくっておかないと、大変なことになります。地域をもう一度結びなおす存在として期待しているのが、生協です。生協は組合員が自分の意思で加入する自治組織でもあります。持続可能な自治組織として、地域で力を発揮されることを大いに期待しています。

熊崎 生協は全国に約3000万人の組合員がいます。生協に属することで、人とのつながりが増え、知らなかったことを勉強したり、実践する機会が増えたりすることが生協の強みです。それを異なる立場の方から言っていただけるのは、とてもうれしく、自信にもなります。

○ みんなで支え合える地域へ

鈴木 人口が減少し、コミュニティが希薄になるなか、目指したいのは多様な人たちが共に生きる地域共生社会です。役割を固定せず、どんな人も助けたり助けられたりができる助け合いの関係を地域に根付かせることで、地域共生社会がつくられます。これはまさに生協の取り組みや赤十字の取り組みに通底しているものです。日本の地域社会を力強いものにするには、生協や赤十字の活動がますます重要になってくるでしょう。

日本赤十字社は、2027年5月1日に創立150周年を迎えます。赤十字の理念を実現するためには活動の基盤をより強固なものにしていきたいと考えています。そのためにも生協の皆さんと一緒に頑張りたいと思います。

熊崎 ありがとうございます。改めてお話を伺い、赤十字と生協には親和性があり、同じような視点で活動をされていることがよくわかりました。一緒にできることがたくさんありそうで、とても心強く感じます。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

つながる想い、広がる未来。

サステナビリティ活動のあゆみ

地域の人々が話し合い、協力しながら、

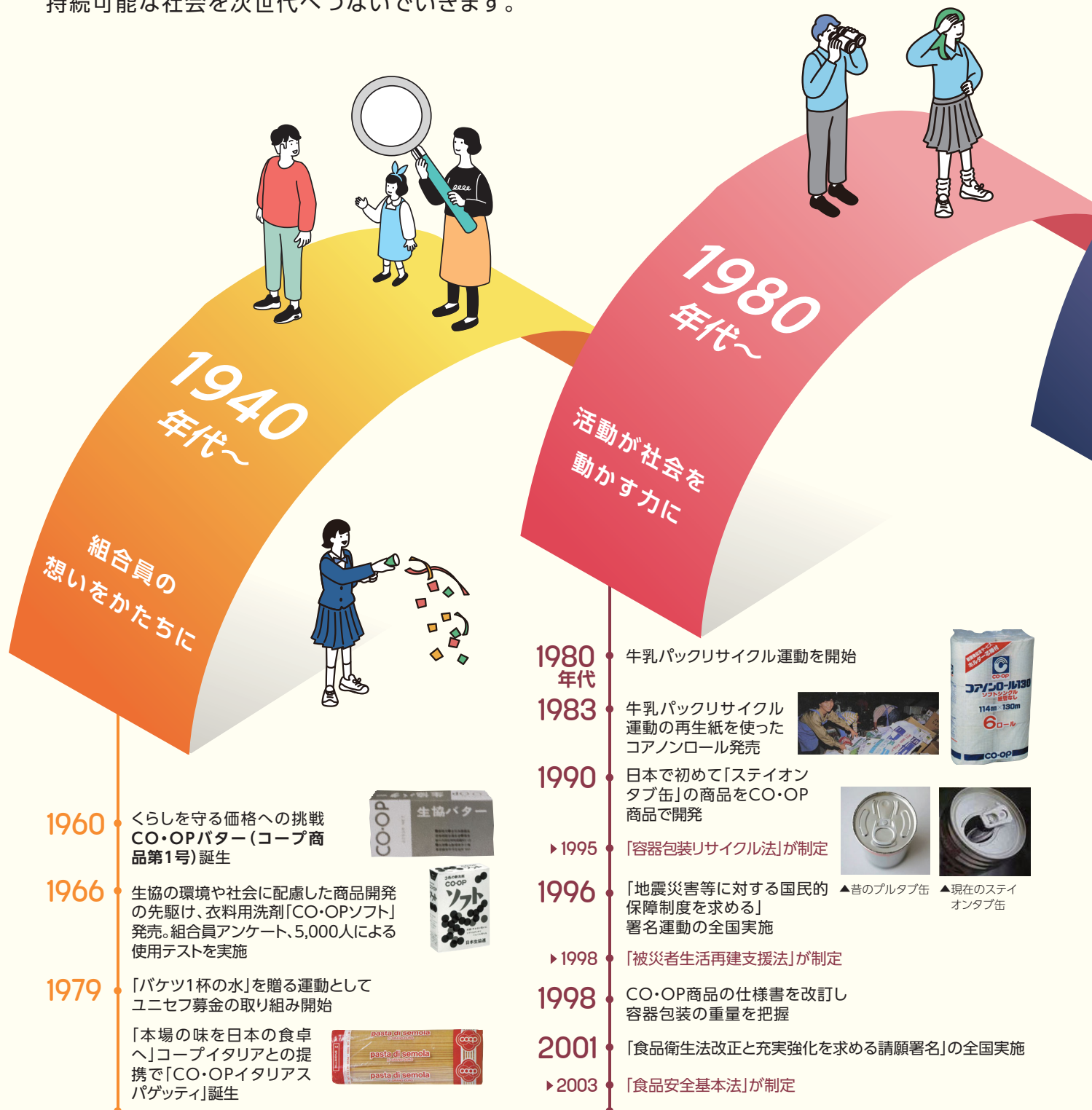
より良い暮らしを目指して取り組んできたコープデリグループのあゆみ。

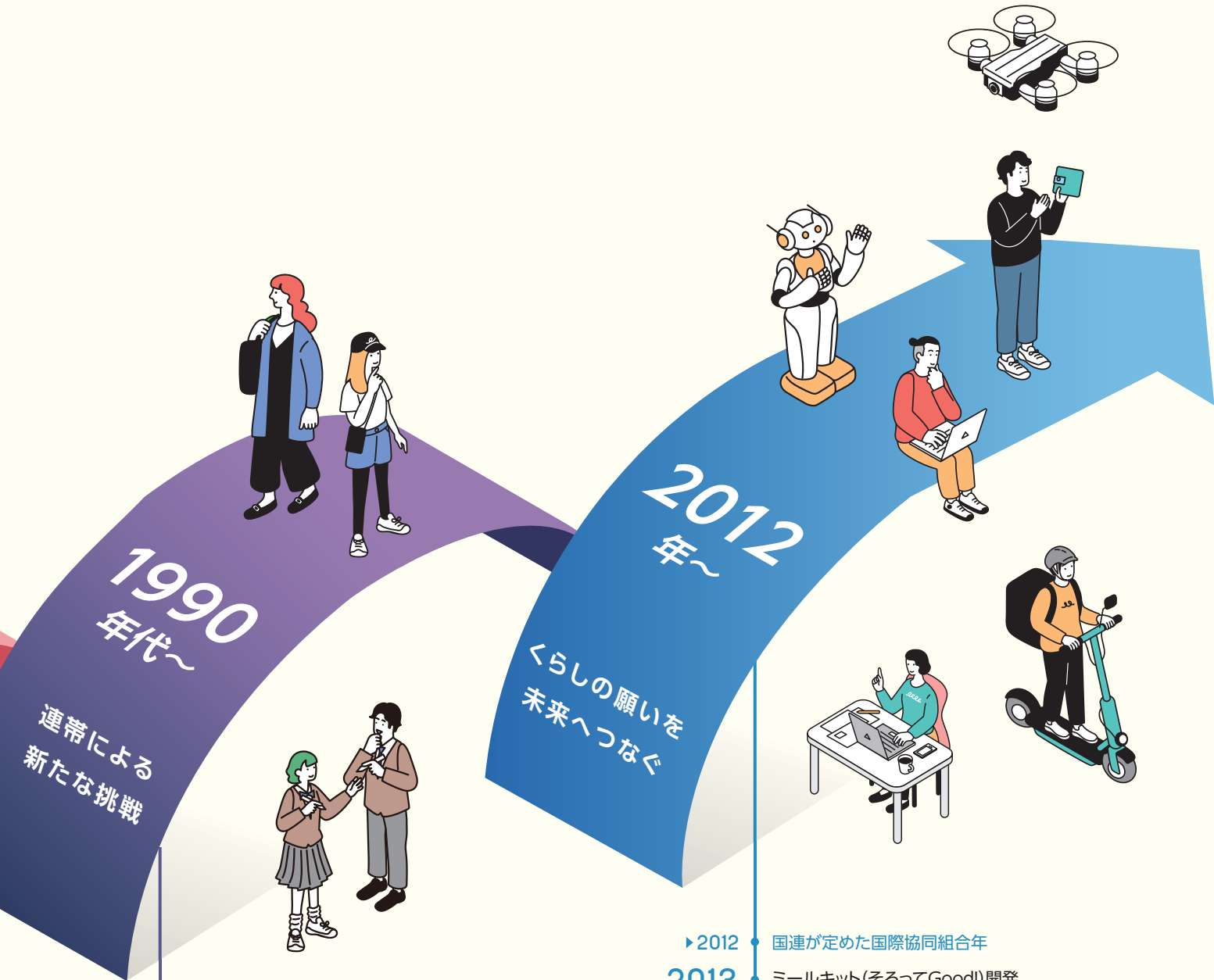
それはコープデリグループの歴史であり、SDGsの目標そのものです。

時代が変わっても、暮らしの豊かさを願う思いは変わりません。

私たちはこれからも、コミュニケーションを広げ、平和や自然との共生を追求し、

持続可能な社会を次世代へつないでいきます。





- 1992 ● コープネット事業連合
(現コープデリ連合会) 設立
- 2002 ● 温暖化防止自主行動計画を策定
- 2006 ● グループ共通の「理念」「2015年ビジョン」を制定
- 2007 ● グループシンボル「グリーン
バルーン」とグループキャラ
クター「ほぺたん」を発表

- 2008 ● ハッピーミルクプロジェクト、
お米育ち豚プロジェクト開始
 
- 2009 ● 「日本を食卓から元気にしたい。」のメッセージを発表
- 2010 ● 佐渡トキ応援お米プロジェ
クト、美ら島応援もずくプロ
ジェクト開始
 
- 2011 ● 「東日本大震災」発生。緊急支援物
資の提供、職員・組合員ボランティ
アによる復旧・復興支援、「東日
本大震災復興支援募金(2011～
2019)」などを実施


- ▶ 2012 ● 国連が定めた国際協同組合年
- 2013 ● ミールキット(そろってGood!)開発
- 2014 ● コープネットグループの目指す姿
「ビジョン2025」策定
- ▶ 2016 ● 「協同組合の思想と実践」が
ユネスコ無形文化遺産に登録
- 2017 ● コープネット事業連合をコープデリ連合会に
組織名称変更
「コープデリでんき」事業開始
- 2018 ● コープデリ商品検査センター
を移転・拡張し開設
- 2021 ● 「コープデリグループのSDGs
重点課題～2030年までの長期
目標と中期方針～」を策定
- 2022 ● 業界初ペットボトルキャップ
を再利用した買い物カゴを
導入
産直はなゆき農場有機牛を
発売
- 2023 ● EVトラックを導入
- 2024 ● コープデリグループ
「ビジョン2035」を策定
- ▶ 2025 ● 国連が定めた2回目の国際協同組合年



未来へ
つなごう



SDGsと コープデリグループ

国際社会の共通目標である「持続可能な開発目標 (SDGs)」と
コープデリグループの理念「CO-OP ともに はぐくむ くらしと未来」が目指す方向は同じです。
「コープデリグループのSDGs重点課題～2030年までの長期目標と中期方針～」は、
コープデリグループが重点的に取り組むべき課題と目標を掲げることで、
社会における役割と存在意義を明確に示し、SDGs達成に貢献するべく策定しました。

コープデリグループ
理念
CO-OP
ともに はぐくむ くらしと未来

**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS**

コープデリグループはSDGsが国連で採択される以前から、リサイクル活動や
エシカル消費対応商品の取り扱いなど持続可能な社会づくりに取り組んできました。
私たちの事業と活動自体がSDGsに沿った取り組みと言えるかもしれません。
SDGs重点課題で掲げた目標は、コープデリグループ単独では実現することは困難です。
目標の達成状況、取り組む姿勢を社会に向けて発信することで、
組合員や同じ志を持つ企業・団体とつながり、ともに達成を目指していきたいと考えています。

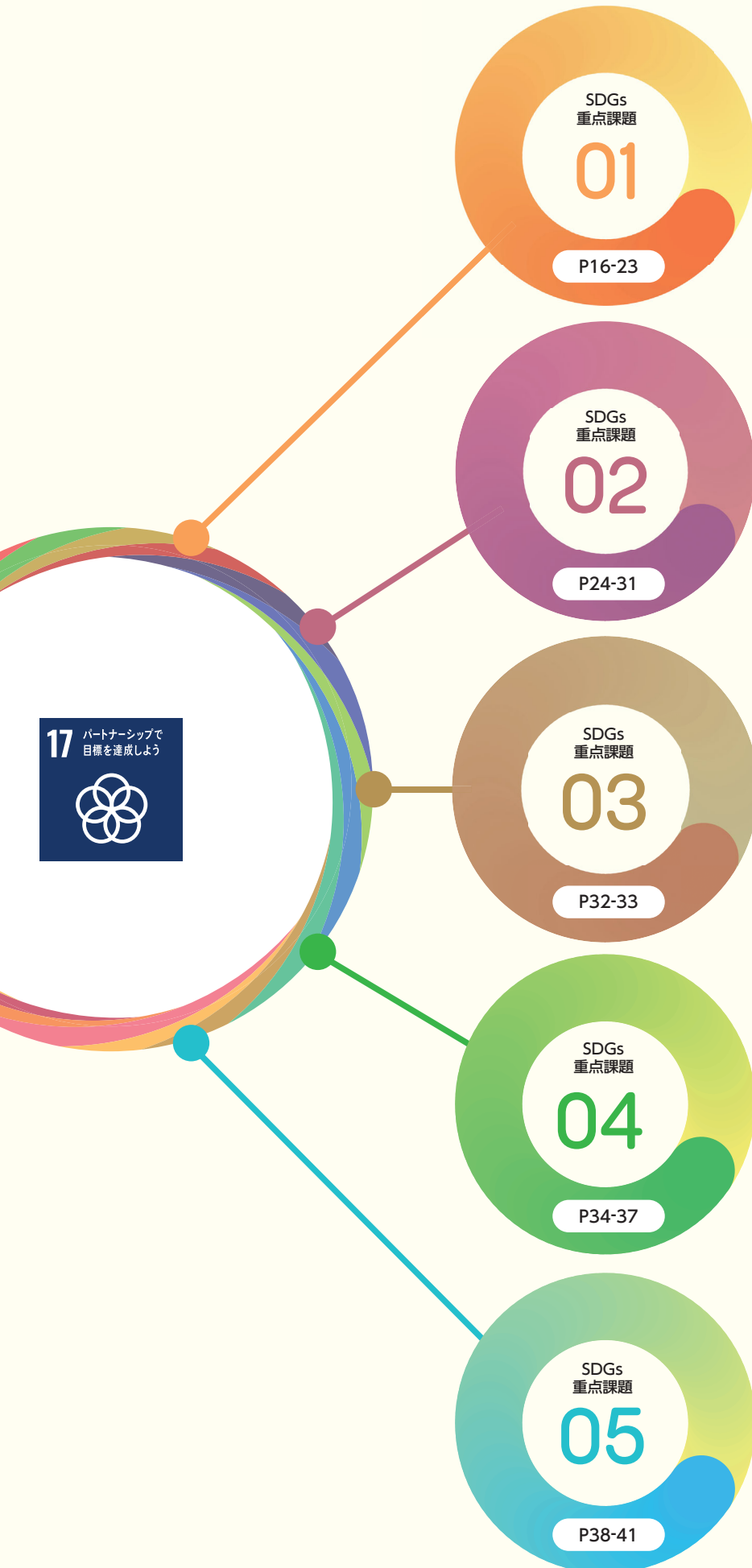
**未来へ
つなごう**

私たちは、「未来へつなごう」を
スローガンに掲げ、グループ全体で
SDGs重点課題の目標達成に
向け取り組みを進めていきます。



コープデリグループの
マスコットキャラクター
“ほべたん”

コープデリグループのSDGs重点課題



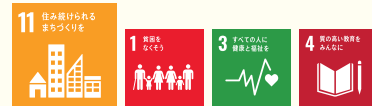
持続可能な生産と消費のために

持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見直していきます



安心して暮らせる地域づくりのために

誰もが安心してくらし続けられる地域社会づくりに貢献します



人にやさしく誇りが持てる組織を目指して

一人ひとりの人権と多様性が尊重され、誰もが安心して働ける組織づくりを進めます



100年後の地球のために

自然の豊かさを未来へつなぎ、地球温暖化対策を進めます



世界中の人々の平和で健康な生活のために

人権が守られ、飢餓や貧困のない平和な世界の実現のために活動します



01 持続可能な生産と消費のために



JA佐渡 産地交流・研修会

「佐渡トキ応援お米プロジェクト」の生産に関わる人々との相互交流を通じ、トキとの共生を目指した取り組みの背景を学びます。

持続可能な生産と消費のために、
商品とくらしのあり方を見直していきます

1

人や社会、環境に配慮した商品を選んで使うエシカル消費に対応した商品の開発と拡大・普及を推進し、2030年度までに2019年度供給高構成比2倍を目指します。あわせて、消費者（組合員）にエシカル消費への共感と行動を広めていきます。

2

コープデリで取り扱う商品について、原料調達から生産・消費までを通して、人権や環境などに配慮した「責任ある調達」ができるよう取り組みを進めます。

3

産地とパートナーシップを深め、持続可能な農畜水産物の生産・消費に貢献できる取り組みを進めます。

4

事業における容器包装と資材の使用量を削減します。プラスチックは、2030年までに2018年度比25%削減します。家庭でできるプラスチック・容器包装削減の取り組みを進めます。

5

サプライチェーン全体における食品廃棄物、食品ロスの削減を進めます。食品廃棄物は2030年までに2018年度比50%削減します。家庭での食品ロス削減を進めます。

「環境」と「人」を未来へつなぐ持続可能な有機牛 産直はなゆき農場有機牛



01 持続可能な生産と消費のために

はなゆき農場飼育頭数

68頭

有機牛の生産は、飼育条件、飼料、健康管理など厳しい有機JASの認定基準をクリアする必要があります。生産者の負担の大きさが課題となっています。この有機牛の生産へのチャレンジを、コープデリが子牛を買い取り、はなゆき農場に育成を預託することで支援しています。2025年度の出荷頭数は10頭、これまでの子牛購入頭数は累計で110頭となりました。

預託という仕組みで、安心して生産に取り組んでもらい、持続可能な食料生産を目指すとともに、若手生産者を支援しています。



詳細はこちら



02 安心して暮らせる地域づくりのために

03 人にやさしく誇りが持てる組織を目指して

04 100年後の地球のために

05 世界中の人々の平和と健康な生活のために

生きものにやさしい米づくりで、
佐渡をトキのふるさとに

佐渡トキ応援お米プロジェクト



日本のお米と田んぼを守る、
お米育ちの産直豚

お米育ち豚プロジェクト



寄付額累計

4,187万

1,109円



コープの産直米の産地、新潟県佐渡市では、トキをはじめとするさまざまな生きものと共生する農業に取り組んでいます。2010年にスタートした佐渡トキ応援お米プロジェクトは、「CO・OP産直新潟佐渡コシヒカリ」とその加工品の売り上げの一部を「佐渡市トキ環境整備基金」に寄付し、トキやさまざまな生きものたちと共生する、環境にやさしい農業を応援する取り組みです。2025年度は214万8,456円を寄付しました。

佐渡のお米を食べることが、生きものをはぐくむ環境づくりやトキと共生するお米作りの応援につながります。



詳細はこちら



飼料用米生産量から換算した田んぼ面積

420ha

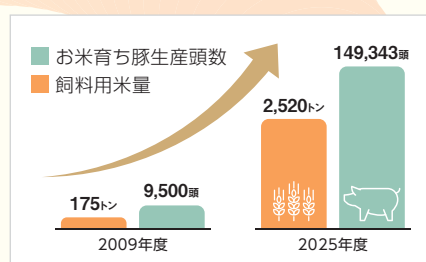


(1haあたりの収穫量6トンで算出)

2008年にスタートしたお米育ち豚プロジェクトは、米の生産者とともに、豚のエサ用のお米「飼料用米」を作ることで田んぼを守っています。そして、飼料用米を豚に食べさせることで日本のお米づくりを応援する取り組みです。

お米育ち豚を食べることが、日本の食と農業、そして畜産業を元気にすることにつながります。

詳細はこちら



エシカル消費拡大に向けた取り組み

コープデリグループは、地域や環境、社会や人々に配慮してモノやサービスを買う「エシカルなお買い物」を積極的に応援しています。エシカルとは、直訳すると「倫理的な」という意味です。コープではエシカル消費を「誰かの笑顔につながるお買い物」として、自分視点だけでなく、環境や社会など他者への視点をプラスして買い物をすることができるよう、有機JAS、フェアトレード、レインフォレスト・アライアンス、MSC、ASC、MEL、FSC、RSPO、エコマークなどの認証・認定商品をはじめ、寄付金付き商品の取り扱いや日本の農畜産業を応援する飼料用米の活用を進めています。

MSCラベル付き水産物を消費者に広める取り組みが認められ、日本生協連とコープデリ連合会が「MSCジャパン・アワード 2025」コミュニケーション部門を受賞しました。

※認証マークについてはP43を参照。

エシカル消費対応商品供給高

1,146億円



詳細はこちら



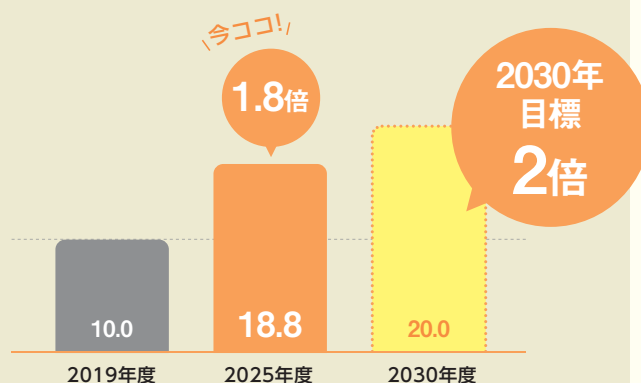
目標の到達状況

2030年目標

エシカル消費対応商品の供給高構成比を

2019年度比で2倍にします。

※単位：％（供給高構成比）



新たな持続可能な養殖のかたち「陸上養殖」
おかそだちサーモン®



おかそだちサーモン出荷量

9.7トン

（成魚ベース）

持続可能な養殖方法として注目されている陸上養殖。おかそだちサーモン独自の水を循環させるシステムは、海を汚さない養殖方法です。おいしさと安心、そして環境への配慮。その全てを大切に育てられたおかそだちサーモンは、抗生物質に頼らない養殖を通じて、持続可能な生産とこれからの食卓、海の未来を支えています。

現在は生産量が少なく一部店舗での取り扱いですが、新たな養殖プラント建設を受け、今後は多くの組合員へお届けすることを目指しています。2026年2月には、店舗の水産担当職員によるプラントの研修を実施しました。



詳細はこちら



将来にわたる安定的な生産と品質の確保を目指して
りんご生産者サポート



りんご生産者サポート会員数

600名

日本一のりんごの産地、青森県。しかし近年の気候変動や生産者の高齢化・後継者不足で、りんごの生産が難しくなっています。コープデリグループは、青森りんご植栽150周年と国際協同組合年である2025年を記念し、産直産地であるJAつがる弘前のりんご栽培を応援する取り組みを開始しました。

1年単位でりんご生産者をサポートする会員を募集し、りんごの苗木の植樹やその後の管理、育成を支援します。組合員が生産者との交流を通じて、産直産地への理解を深めるとともに、持続可能なりんごの生産を目指します。



詳細はこちら



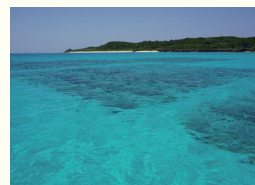
CLOSE UP

ちゅしま 美ら島応援もずくプロジェクト

いへや 伊平屋島がこの先もずっと、美しい島でありますように



2010年からスタートした美ら島応援もずくプロジェクトは、もずくの売り上げの一部を伊平屋島に寄付し、漂着ごみの運搬・処理など、自然環境保護活動に役立てています。伊平屋村、日本生協連、コープデリ連合会、伊平屋村漁協、海産物のきむらやの5者による「伊平屋島の環境保護」を目的とした連携から始まった取り組みです。



2025年度寄付金

寄付額累計

207万
2,297円

2,326万
2,261円

伊平屋産もずくの加工品を購入いただきありがとうございます。商品の売り上げの一部を寄付いただく「美ら島応援基金」を大切に、伊平屋島の原風景が残る海を整備し、守っていきたくと思っています。



伊平屋村
真栄田 孝 村長

完熟ではなく八分、身の詰まった状態で収穫するというのが伊平屋産のもずくの特長です。時化(しけ)るとうねりの強い、流れの速い海でとれるもずくなので、コシがあります。それが伊平屋のもずくとして自負しています。



伊平屋村漁協
新垣 雅士 代表理事組合長

42年もの長い取引となっており、産地の海人も、私どもの求める品質を非常によくわかってきています。伊平屋島の「伊平屋ブルー」と呼ばれる綺麗な海で育ったヌメリの強い、トロツとした舌触りのあるもずくを、しっかりと味付けして提供してまいります。



株式会社海産物のきむらや
木村 美樹雄 代表取締役社長

詳細はこちら



沖縄県伊平屋島産もずくが MEL 認証を取得しました

MEL 認証とは、国際的に認められている日本発の水産エコラベル認証制度で、日本の水産業と魚食文化の発展を目指しています。①生産段階(漁業・養殖認証)、②流通加工段階(CoC認証)の両方を満たすことで商品にロゴマークを表示できます。消費者はMELロゴを手がかりに「環境にやさしい方法で漁獲、養殖された国産水産物」を選ぶようになります。



食品ロス削減に向けた取り組み

食べられるのに、食べることなく捨てられてしまう「食品ロス」。日本の食品ロスの量は年間464万トン※と推計されています。

コープデリグループでは、食品ロス削減につながる商品の販売や、事業での食品廃棄物の削減、余剰食品のフードバンクへの寄贈などに取り組んでいます。また、「てまえどり」や季節商品の予約購入の呼びかけ、食品ロスに関する学習会の開催など、組合員とともに食品ロス削減に取り組んでいます。

※農林水産省「令和5年度推計」より



詳細はこちら



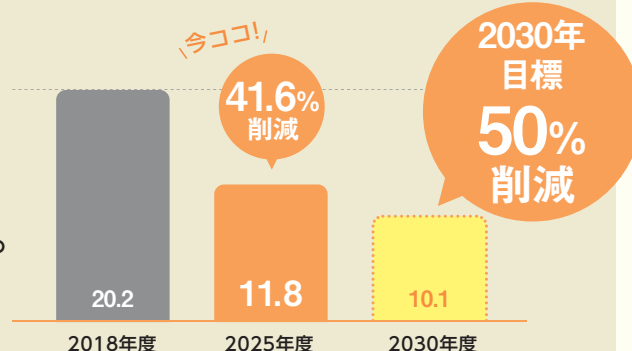
事業からのフードバンクへの寄付

56トン
(物流予備品など)

目標の到達状況

2030年目標
事業における食品廃棄物を
2018年度比**50%削減**します。

※単位: kg/千万円(店舗供給高当たりの最終廃棄量)



職員の働きやすさも、食品ロス削減も実現
夏季一斉配達休業中の
農畜産物の対応



コープデリでは、職員の働きやすさと夏の猛暑対策として夏季一斉配達休業※を実施しました。5日間の宅配サービスの休業中にも、たまごや牛乳、農産品など、生産量を調整できない商品があります。これらの商品を無駄にしないために、店舗での特価販売を行ったり、さらにたまごはお取引先の協力のもと「CO・OP産直のはぐくむたまごで作ったマヨネーズ」といった加工品の原料として活用しました。

※夏季一斉配達休業については33ページをご覧ください。



不揃いやキズがあっても大事にしたい
規格外農産物の
取り扱い



天候被害果・規格外農産物供給高

49.8億円

ちょっとしたキズ、サイズの違いで規格外となる野菜や天候被害を受けた果物は、商品として流通させることが難しく、多くの場合、加工用に回されたり廃棄されたりします。

コープデリグループは見た目は劣っても味には影響のない農産物を、理由を伝えて販売しています。育ちすぎたにんじんや表面にキズの付いたりんごも生産者が大事に育てたおいしい商品です。また、畑で採れたトマトを選別せずにさまざまな形のものを丸ごとお届けするなど、産地と組合員のつながりの中で生まれた商品も、今ではコープの人気商品です。



INTERVIEW

からだにも環境にもうれしい

コープデリONEDISHスープ

“もったいない”
未利用原料を
アップサイクル!

さまざまな商品を製造する際に発生する、原料の未利用部分。

コープデリモールキットの副菜として販売しているコープデリONEDISHシリーズのスープは、これらの未利用部分を活用し、滋味深い野菜のおいしさを引き出しました。

開発した職員に、開発にける思いを聞きました。

“もったいない”を
“おいしい”に
つなげました!コープデリ連合会
宅配戦略商品開発室
千葉 知美さん

私たちのものづくりの現場では、毎日たくさんの原料を使う中で、どうしても未利用部分が生まれてしまう。この“もったいない”を減らしながら、食卓で「また買いたい」と思っていただけのおいしさを届けたい。そこが開発の原動力です。

コープデリONEDISHスープで大切にしたのは、素材の価値を引き出して、より良い商品に生まれ変わらせること。たとえばカットサラダで出るキャベツの芯は、甘みのもとになる成分を多く含み、加熱すると甘みが引き立ちます。そこで、レトルトではなく低温で殺菌する製法で、野菜の風味を感じられるスープに仕立てました。ジュースを搾ったあとのにんじんも、スープの味わいに生きています。

これからも
新しい素材、
新しい味わいに、
挑戦します!!コープデリ連合会
宅配戦略商品開発室
二神 明光さん

実際に「野菜が苦手な子どもが食べてくれた」「忙しい日に助かる」「やさしい味でリピートしている」といった声をいただくたび、挑戦してよかったと感じます。

2023年3月のシリーズ販売開始からご利用数も伸びて、使える未利用原料も増えてきました。これまでに累計約25トンの未利用原料が、捨てられずにスープへ生まれ変わりました。さらに、コープデリONEDISHスープの人気商品「とうもろこしとキャベツのポタージュ」が2026年4月のジャパンフードセレクショングランプリを受賞しました。これからも、身近な環境配慮に“おいしく参加できる”商品をもっと増やしていきます。

販売実績

42万7,629パック

「とうもろこしとキャベツのポタージュ」が、
ジャパンフードセレクション
グランプリを受賞

2026年4月
グランプリ受賞

プラスチック削減に向けた取り組み



プラスチック製品は手軽で便利な生活必需品ですが、使用後にきちんと処理をしなければ、いずれ海に流れ着き「海洋プラスチック」の問題につながります。また、処理についても、燃やすことで温室効果ガスを発生させる原因ともなります。

コープデリグループは容器包装プラスチックについて、薄肉化や使用量の削減、詰め替えによる本体容器の再利用の推進、リサイクル素材や再生可能資源の商品への活用などを進めています。

さらに、コープでは1990年代からマイバッグ利用を呼びかけています。組合員のレジ袋辞退率は85.2%、日常的にマイバッグを利用することでレジ袋の削減につながっています。

レジ袋辞退によるプラスチック削減量

554トン



詳細はこちら



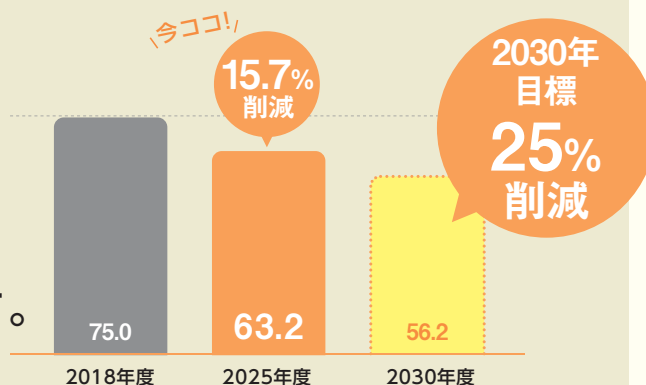
目標の到達状況

2030年目標

事業における容器包装
プラスチック使用量を

2018年度比**25%削減**します。

※単位: kg/千万円(供給高当たりの重量)



マイボトルを活用し、プラスチックを減らす
ウォーターサーバーの
導入



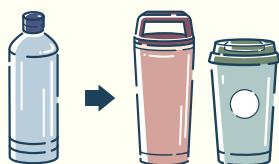
削減したペットボトル

年間184万本

※重量は39.4トン

毎年夏、宅配センターでは職員の熱中症対策としてペットボトル飲料を配布してきました。その数、年間184万本。使い終わったペットボトルは廃棄物となることが問題でした。新たに順次宅配センターに飲料用のウォーターサーバーを導入し、ペットボトルの配布から、職場のウォーターサーバーでマイボトルに給水するスタイルへと変更しました。使い捨てからマイボトルの活用へ、職場から変えています。

※ウォーターサーバーの取り組みは33ページをご覧ください。



小さなキャップも集まれば大きな力に
ペットボトルキャップ
リサイクル



組合員から回収したペットボトルキャップ

1億3,998万個

※2g/個で重量より換算

ペットボトル本体に比べて分別が後回しになりやすく、つい捨ててしまいがちなキャップも大切な資源です。コープデリグループではリサイクルの取り組みのひとつとして、組合員の皆さんからペットボトルキャップを回収しています。回収したペットボトルキャップは、一部の店舗の買い物カゴやベビーカートの原料に使用されています。

ペットボトルキャップのリサイクル資源としての売却益の一部を世界の子どものワクチン支援に役立てています。寄付については39ページをご覧ください。



詳細はこちら



CLOSE UP

大切な資源をリサイクルにつなげるために
コープデリエコセンター

私たちの身の回りには、限りある資源から作られています。
大切な資源を守るために必要なのが「リサイクル」。コープデリのリサイクルで、
要となるのが「コープデリエコセンター」(千葉県野田市)です。



組合員の皆さんから、コープデリの
宅配・店舗で回収した資源物は**コープデリエコセン**
ターなどに集められ、リサイクルしやすいかたちにまとめられます。



宅配センター・店舗に商品を納品した際の「**戻り便**」で資源物を運びます。トラックを効率よく運用することで、運ぶときのCO₂排出を減らします。

選別

資源物に他の素材が混ざっていると、**リサイクルができません**。集まった資源物の一部は、コープデリエコセンターの職員によって汚れやラベルが付いたものを取り除き、次の製品へと生まれ変わります。



たまごパックの選別



ペットボトルの選別

圧縮

運搬・リサイクルしやすいよう、機械で**大きな束**にまとめます。トラックにぴったり入るサイズに圧縮することで、**効率よく運ぶ**ことができます。



大型減容機



古紙や飲料用紙パックの1束は約1.1トン



組合員の皆さんのおかげで、とてもきれいな資源物が集まり、良質なリサイクルにつながっています。これらの資源物がしっかりと次の工程に届くように、エコセンターでは異物を取り除いたり、運びやすいかたちにまとめるなどの作業を行っています。これからもリサイクルへのご協力をお願いいたします。

コープデリエコセンター
長島 稔センター長

コープデリエコセンターの1日を
動画でご覧いただけます



02 安心して暮らせる 地域づくりのために



交通安全教室

宅配センターの職員が配達地域にある幼稚園・保育園を訪問し、交通ルールや道路上での危険を知ってもらうための交通安全教室を行っています。

誰もが安心して暮らし続けられる
地域社会づくりに貢献します

1

くらしと地域を支える生活インフラとしての機能を果たし続けられるよう、事業・商品・サービスの改善を続けます。

2

自治体や地域住民・諸団体と連携して、地域の人々が協力し、支えあえる取り組みや仕組みづくりを進めます。

3

天災などによる被災地の復興支援活動に取り組みます。災害に備え、防災・減災の取り組みや行政や地域の諸団体との連携を進めます。

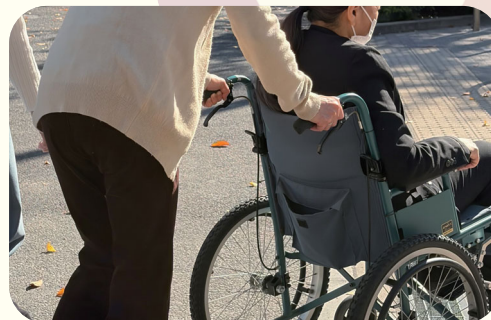
くらしの中の困りごとを、お互いさまの気持ちでサポート くらしのたすけあいの会



たすけあい活動時間

34,119時間

コープデリグループの会員生協では、お互いさまの気持ちを大切に、くらしの中の困りごとで「誰かの手を借りたい」と思った時、組合員による有償のボランティアによってたすけあう活動を行っています。「組合員同士でたすけあえたら」、そんな願いから生まれた「くらしのたすけあいの会」は、生協の相互扶助の理念に基づき人と人をつなぎ、誰もが自分らしく、安心していきいきと暮らすことができる街づくりを目指します。



「もったいない」から「ありがとう」へ フードドライブ活動



フードドライブに寄贈いただいた食品量

32.1トン

一部の店舗や事業所に設置している「食品寄贈ボックス」やイベント開催時に、組合員から家庭で眠っている食品をお寄せいただく「フードドライブ」活動を実施しています。集まった食品（缶詰、インスタント食品など）は、フードバンクなどを通じて地域の福祉団体や施設など、支援を必要としている方へ寄贈しています。また、未使用の文具を提供いただく取り組みや、新品または未使用品同等の子ども服を提供いただく取り組みなどにも広がっています。



地域に生まれてきてくれてありがとう 『はじめてばこ』

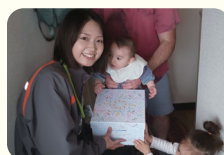


『はじめてばこ』申込数

16,608箱

地域に生まれてきた全ての子どもたちに、「おめでとう」と「生まれてきてくれてありがとう」の気持ちを込めて、赤ちゃんが生まれたご家庭に『はじめてばこ』をお届けしています。各地域の特徴をデザインした『はじめてばこ』の中には、これから赤ちゃんが経験するたくさんの方の「はじめて」への応援の気持ちを表し、サポーター企業からのプレゼントを入れて、お渡ししています。

コープデリグループの会員生協は、この事業のパートナーとしてコープデリグッズを提供するほか、『はじめてばこ』のお届けを担います。



01 持続可能な生産と消費のために

02 安心して暮らせる地域づくりのために

03 人によさしく誇りが持てる組織を目指して

04 100年後の地球のために

05 世界中の人々の平和で健康な生活のために



コープみらい



くらしを守る島しょ配達

日常のくらしの支えとともに災害時の支援も実施



コープみらいでは、買い物が困難な離島においても安心して暮らし続けられるように、島しょ地域にお住まいの組合員へ毎週商品をお届けしています。島しょ配達としてサービスを提供しているのは、東京都の伊豆諸島エリアです。本州から船で運ばれる商品は、島でのくらしに欠かせないインフラとして多くの組合員に待ち望まれています。

伊豆諸島・八丈島(八丈島八丈町)では、10月に襲来した台風22号および23号により八丈島内の広範囲に大きな被害が発生しました。コープみらいは、東京都からの要請を受けた東京都生活協同組合連合会を通じて支援物資を送付しました。



返済不要の奨学金制度

組合員の助け合いの気持ちでサポート



日本では多くのひとり親世帯は経済的な不安を抱えており、子どもの貧困が深刻な社会課題です。コープみらいでは、組合員でひとり親家庭(両親がいらない方も含む)の高校生を対象とした返済不要の奨学金給付事業を、コープみらい社会活動財団を通じて実施しています。

この奨学金給付事業は、コープみらいの組合員の「奨学金応援サポーター」の皆さんからの募金で支えられており、組合員同士の助け合いとして行っています。奨学生と奨学金応援サポーターをつなぐ冊子を発行し、互いの声を届けています。

卒業生の奨学生からの声

奨学金のおかげで学業、部活ともに充実した高校生活が送れました。これからは自分の夢に向かって頑張ります。ひとり親家庭でも夢を諦めずにできることをやりたいと思います。

奨学金応援サポーターからの声

学生時代は、いろいろな意味で人生の土台になります。毎日を楽しんでほしいです。お会いしたことのない皆様ですが微力ながら応援させてもらっていることがとても嬉しいです。

コープみらいの概況

(2026年3月20日現在)

名称	生活協同組合コープみらい
住所	〒336-8523 埼玉県さいたま市南区根岸1-5-5
電話番号	048-864-1181
理事長	熊崎 伸
設立年月日	2013年3月21日
組合員数	387万9,583人
組織率	27.5%

出資金	726億9,486万円
事業高	4,379億8,410万円
正規職員人数	3,083人
パート・アルバイト職員在籍人数	10,320人
宅配センター数	76センター
店舗数	125店舗
福祉事業所数	57施設



いばらきコープ



防災教室の開催

日ごろから防災への備えの大切さを考える



いばらきコープでは茨城県内全44市町村と「災害時における物資の供給に関する協定」を締結しています。万が一災害が起こった場合は、行政からの要請に基づいて救援物資をお届けできるようにしています。また、地域社会に貢献する取り組みのひとつとして、地域の防災訓練・防災フェアなどで防災教室を実施しています。

防災教室では、「新聞紙でスリッパ作り」などのワークショップを行い、非常時に役立つスキルを体験していただきました。参加された方からは、「新聞紙で簡単にスリッパが作れるのはよいですね」「新聞紙で作ってあるから保温性があります」「自宅で作って少しストックしておこうかな」など多くの声をいただきました。



紙おむつなどを寄贈

キャンセル商品も地域の福祉へ



どうしても注文間違いなどの理由でキャンセルとなる商品が発生してしまいます。それらの商品を廃棄するのではなく、福祉施設やフードバンクに寄贈する取り組みを進めています。

2025年度は、子ども用紙おむつ・粉ミルクをさくらの森乳児院（つくば市）や日本赤十字社茨城県支部乳児院へ、大人用紙おむつ・尿取りパッドを小美玉市・茨城町の各社会福祉協議会へお届けしました。寄贈品は、養育が困難な乳幼児を支える施設や、在宅介護世帯など支援を必要とする方々に活用されています。

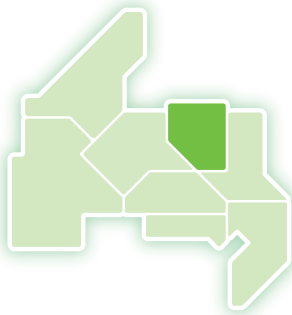


いばらきコープの概況

（2026年3月20日現在）

名称	いばらきコープ生活協同組合
住所	〒319-0102 茨城県小美玉市西郷地1703
電話番号	0299-48-3243
理事長	木村 千秋
設立年月日	1971年10月24日
組合員数	41万6,213人
組織率	32.9%

出資金	143億9,355万円
事業高	438億714万円
正規職員人数	489人
パート・アルバイト職員在籍人数	926人
宅配センター数	12センター
店舗数	5店舗
福祉事業所数	5施設



とちぎ"コープ"



「はがき・切手回収キャンペーン」

おうちに眠るはがき・切手が、子どもたちの未来を支える



家庭で使わずに眠っているはがきや切手、図書カードなどを組合員からお寄せいただき、換金した資金を地域で子ども・子育て支援の活動を行う団体へ寄付する「はがき・切手回収キャンペーン」。

とちぎコープでは、2025年度に145万2,640円を栃木県共同募金会へ贈呈しました。寄付金は、赤い羽根とちぎ「子ども・子育て」支援特別助成として、栃木県内の子どもたちを取り巻く課題の解決や、子育て環境の改善に活用されています。組合員一人ひとりの小さな行動が、地域の子どもたちの笑顔につながっています。



地域の自然を学ぶ「環境学習会」

組合員とともに那珂川で外来植物を駆除



「栃木県なかがわ水遊園」(大田原市)にて、環境学習会を開催し、組合員6家族と職員を含む計25名が参加しました。

学習会では、外来生物問題やプラスチックごみが自然環境に与える影響について専門スタッフから講義を受けた後、那珂川の河川敷で特定外来植物「アレチウリ」の駆除を実施。猛暑の中での活動となりましたが、ごみ袋17袋分を駆除することができました。参加者からは「講義だけでなく、実際に駆除したことで、外来生物問題をしっかり認識できた」との声が寄せられました。地域の自然環境を守る取り組みを、組合員とともに学び・行動する場として、今後も継続していきます。



とちぎコープの概況

(2026年3月20日現在)

名称	とちぎコープ生活協同組合
住所	〒321-0195 栃木県宇都宮市川田町858
電話番号	028-634-5115
理事長	塚原 政雄
設立年月日	1973年6月29日
組合員数	28万8,178人
組織率	34.3%

出資金	88億5,959万円
事業高	303億951万円
正規職員人数	283人
パート・アルバイト職員在籍人数	577人
宅配センター数	7センター
店舗数	4店舗
福祉事業所数	—



コープぐんま



プラチナくるみんプラス認定 働く人を、組織全体で包み込む

コープぐんまは仕事と子育て・不妊治療の両立や育児・介護休業制度の推進による働きやすい環境づくりが評価され、厚生労働省の「プラチナくるみんプラス」認定を取得しました。群馬県内の企業でこの認定を取得したのは、コープぐんまが3例目です。

認定マーク「くるみん」のロゴには、あかちゃんが包まれている「おくるみ」と会社ぐるみ・職場ぐるみで子ども達の育成に取り組むはぐくんでいこう、という意味が込められています。育児・介護に関する制度の充実とともに、誰もが安心して長く働き続けられる職場環境づくりに、組織全体で取り組んでいます。



JA佐波伊勢崎との連携による収穫体験 産地と組合員をつなぐ学びの場

12月13日(土)、JA佐波伊勢崎との連携による収穫体験を開催し、今回で10年目を迎えました。今年は、ブロッコリーとケールを掛け合わせた野菜「アレッタ」と、群馬ブランドの高糖度ミニトマト「ルージュの宝石箱」の収穫、生産者の皆さんとの交流を楽しみました。

収穫後は生産者による商品紹介やクイズ大会も行われ、採れたたのアレッタを使ったミネストローネが振る舞われました。生産者と組合員の顔の見える関係を築き続けるこの場は、食と農の大切さを次世代へつなぐ機会となっています。



コープぐんまの概況

(2026年3月20日現在)

名称	生活協同組合コープぐんま
住所	〒376-8523 群馬県桐生市相生町1-111
電話番号	0277-52-7711
理事長	大貫 晴雄
設立年月日	1956年4月23日
組合員数	36万1,650人
組織率	39.0%

出資金	63億5,419万円
事業高	342億5,701万円
正規職員人数	344人
パート・アルバイト職員在籍人数	860人
宅配センター数	8センター
店舗数	8店舗
福祉事業所数	4施設



コープながの

全日本障害者クロスカントリースキー競技大会協賛



2月7日(土)、8日(日)に、長野県白馬村の白馬クロスカントリー競技場(スノーハープ)で「第28回全日本障害者クロスカントリースキー競技大会」が開催されました。コープながのは、日本生活協同組合連合会、日本コープ共済生活協同組合連合会、とやま生活協同組合とともに本大会に協賛し、運営を支援しました。

この大会は、さまざまな障がいのあるアスリートが全国から集い、その技術を競い合うとともに、障がいの有無にかかわらず誰もが互いにつながり、ともに支え合う「共生社会の実現」に寄与することを目指しています。コープながのは、地元・白馬での開催を応援するとともに、障害者スキー競技の魅力を広く知っていただき、パラスポーツの発展に貢献することを後押ししています。



コープでは
パラノルディックスキー
応援キャンペーンを
実施しています



詳細はこちら



「お店の縁側」 誰でも立ち寄れるおしゃべりの場



コープながのの店舗では、イートインスペースを活用し、毎月「お店の縁側」を開催しています。温かいお茶があって、人がいて、おしゃべりもできて、誰でも立ち寄れる。そんな「お店の縁側」は、参加費無料・申し込み不要で、心をあたためにお気軽にお立ち寄りいただける場として、地域の居場所を目指しています。

コープのお店が単なる買い物の場を超え、地域コミュニティの拠点となるこの取り組みは、生協が大切にしてきた「たすけあい」の精神を、日常の中で体現するものです。



コープながのの概況

(2026年3月20日現在)

名称	生活協同組合コープながの
住所	〒388-8555 長野県長野市篠ノ井御幣川668
電話番号	026-261-1200
理事長	丸山 辰明
設立年月日	1992年9月21日
組合員数	34万5,901人
組織率	40.1%

出資金	136億5,985万円
事業高	460億1,846万円
正規職員人数	458人
パート・アルバイト職員在籍人数	569人
宅配センター数	12センター
店舗数	2店舗
福祉事業所数	9施設



コープデリにいがた



はじめてのボッチャ体験

全ての人と一緒に楽しく競い合う

ヨーロッパで生まれたボッチャは、重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障がい者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目です。年齢、性別、障がいのあるなしにかかわらず、全ての人と一緒に競い合えます。

参加したほとんどの方は初体験でしたが、青と赤のボールを握りしめて何回もボールを投げ合いました。5歳のお子さんも参加し、和やかにゲームを終了。参加者からは「パラリンピックで興味を持っていました。ルールもわかり楽しめました」「身体を動かし、楽しく参加できました。初めてでもやれるのでよかったです」「もっとボッチャをしたかったと思うくらい、時間が短く感じました」などの声がありました。



親子で学ぶフードマイレージ

地球とカラダにやさしいごはんを選ぼう

7月19日(土)、新潟県立大学で親子11組26人の親子が「地球とカラダにやさしいごはんを選ぼう!～親子で学ぶフードマイレージ～」に参加しました。新潟県立大学の学生が講師となり、食材がどこから運ばれてくるかを考えるフードマイレージについて「地球にやさしいごはん」として説明。

また、「カラダにやさしいごはん」として三色食品群について学び、さまざまなメニューが書いてあるカードを使い、三色食品群のどれに当てはまるか、フードマイレージはどのくらいかなど、楽しみながら確認しました。



コープデリにいがたの概況

(2026年3月20日現在)

名称	生活協同組合コープデリにいがた
住所	〒950-1194 新潟県新潟市西区山田2309-7
電話番号	025-201-5550
理事長	登坂 康史
設立年月日	2022年3月21日
組合員数	24万6,972人
組織率	26.9%

出資金	61億1,714万円
事業高	289億4,032万円
正規職員人数	218人
パート・アルバイト職員在籍人数	280人
宅配センター数	8センター
店舗数	—
福祉事業所数	—

03 人にやさしく誇りが持てる 組織を目指して



子ども参観日

毎年、夏休み期間には、職員のお子さん・お孫さんが、父母・祖父母の仕事を見学・体験しています。実際に働いている姿を見て体感することで、生協や仕事への理解を深めています。

一人ひとりの人権と多様性が尊重され、誰もが安心して働ける組織づくりを進めます

1 人権と多様性が尊重され、それぞれの個性や能力に応じて活躍できる組織をつくります。

2 ジェンダー平等が実現され、性差に関係なく活躍し役割発揮できる組織をつくります。

女性職員が長く働き続けられる組織風土づくり

Womenいきいきプロジェクト



参加した女性職員

108人

「Womenいきいきプロジェクト女性職員交流会」は女性職員が長く働き続けられる組織風土づくり、活躍の場を広げることができる環境づくりを目的に、2022年度から毎年、宅配や店舗といった業態ごとに開催されてきました。2025年度は、初めて全会員生協、宅配・店舗の合同開催となり、さまざまな声が飛び交う、にぎやかな交流の場となりました。

コープデリグループでは全職員が女性職員の課題に対して理解することを目指し、定期的に学習会を開催し、女性特有の悩みをサポートする制度を整えています。

参加者の声

女性ならではの悩みや、将来などを共有・共感し、今後のモチベーションにつながりました。

参加者の声

交流会に参加するたびに、みんなから元気をもらえ、一緒に仕事をがんばっていこうと思えます。



夏の猛暑から職員を守り、働きやすい職場環境づくりを

宅配サービス

夏季一斉配達休業



近年の深刻な猛暑を受け、宅配の職場では暑さ対策を進めています。また宅配では配達担当が交代で夏季休暇を取得していますが、配達体制を整えることが大きな課題でした。こうしたことから、猛暑による疲労・熱中症から職員を守り、職員の働きやすい職場環境づくりを実現するため、宅配サービスの夏季一斉配達休業を実施しました。

夏季一斉配達休業前には、ストック品や冷凍弁当、冷凍ミールキットなどの商品企画を充実させ、休業期間の食生活に困らないよう、組合員への事前の案内を分かりやすく丁寧に行いました。

※休業中の農産物の食品ロス削減の取り組みは20ページをご覧ください

組合員の声

猛暑の中いつもありがとうございます。この休暇で身体を休めていただけると、組合員としても大変うれしく思います。

組合員の声

ゆっくり休めましたか？あらためて宅配のありがたみを感じました。

担当者の声

しっかりお盆のあいさつや暑参りができたので本当によかったです。

担当者の声

休み明けに、全員がリフレッシュして笑顔で出勤してきたのがよかった。

年間を通じて健康的な水分補給を支える

ウォーターサーバーの設置



宅配センターで働く職員にとって、夏場の水分補給は健康と安全に直結する重要な問題です。

コープデリグループでは、夏場を中心として約5カ月間、ペットボトル飲料を職員に配布し熱中症対策を行ってきました。新たに季節を問わず職員がいつでもマイボトルへ給水できるように、宅配センターへウォーターサーバーを設置しています。体への負担から常温水を要望する声に応え常温水で純水を生成する装置を導入しました。職員の熱中症予防と健康維持のため、適切な水分補給を促しています。

利用職員の声

水が柔らかく感じられました。

利用職員の声

おいしくて使いやすく、よかったです。



01 持続可能な生産と消費のために

02 安心して暮らせる地域づくりのために

03 人々にやさしく誇りが持てる組織を目指して

04 100年後の地球のために

05 世界中の人々の平和と健康な生活のために

04 100年後の地球のために



田んぼの生きもの調査

田んぼに生息するさまざまな種類の生きものを探し、生物多様性の大切さを体験の中で学んでいます。

自然の豊かさを未来へつなぎ、
地球温暖化対策を進めます

1

事業から排出される温室効果ガスを、2030年に2013年度比60%削減します。2050年には温室効果ガス排出量実質ゼロを目指します。

2

再生可能エネルギーの開発・利用を進め、
持続可能な社会づくりへ貢献します。

3

生物多様性の保全と、自然回復へつなげる
環境保全活動に取り組みます。

自然の大切さを知り、学び、考えるきっかけに コープデリのエコ活



この地球を次世代へつなげるためには、現在起きていることを知り、今何をすべきかを考えることがとても重要です。「温室効果ガス(特にCO₂)」「使い捨てプラスチック」「食品ロス」の3つの問題をテーマとした環境の取り組み「コープデリのエコ活」をはじめとして、環境について学び実践するための学習会や体験の機会をさまざまな形で提供しています。

特に、子どもたちが楽しみながら身近な環境を知り、学び、そしてこれからの地球について考えるきっかけとなるように、森のがっこう、川のがっこうなどのがっこうシリーズやネイチャークラブ、エコたんけん隊など、地域の中で体験できる企画を大切にしています。

詳細はこちら



コープみらい

コープみらいの森



詳細はこちら



いばらきコープ

森のがっこう



詳細はこちら



とちぎコープ

足尾で植樹体験&環境学習会



詳細はこちら



コープぐんま

春の森林づくり



詳細はこちら



コープながの

川のがっこう



詳細はこちら



コープデリにいがた

田んぼの生きもの調査



詳細はこちら



01 持続可能な生産と消費のために

02 安心して暮らせる地域づくりのために

03 人によりよく暮らすための持続可能な組織を目指して

04 100年後の地球のために

05 世界中の人々の平和と健康な生活のために

再生可能エネルギーをコープの施設でつくる 太陽光発電設備の設置



太陽光発電能力(設備容量)

12,538kW

コープデリグループでは「2030年温室効果ガス削減目標の達成に向け重点的に取り組む3つの柱」の1つとして、再生可能エネルギーの創出と使用による電気由来のCO₂削減に取り組んでいます。宅配センターや店舗、物流センターなどの屋上への太陽光発電設備の設置を進め、発電された電気の一部をコープデリグループの施設で使用しています。また、2025年度は新たな試みとして物流施設の駐車場へソーラーカーポートを設置しました。

2025年度は4施設に新たに設置し、発電能力(設備容量)が798kW増えました。



詳細はこちら



バイオガス発電による食品リサイクル 食品廃棄物による発電

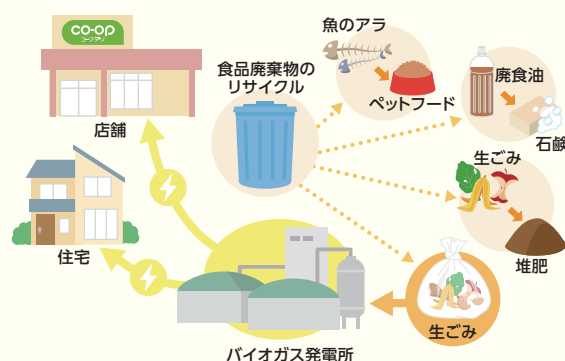


食品リサイクル率

93.5%

コープデリグループでは店舗の食品廃棄物のリサイクル率は2025年度93.5%と、食品リサイクル法に基づく再生利用などの実施率目標65%(食品小売業)を大きく超えています。

リサイクル方法のひとつ「バイオガス発電」では、食品廃棄物を微生物の働きで発酵させ、発生したメタンガスを発電用の燃料として活用します。発電された電気は、全国の生協の電力事業を担う日本生活協同組合連合会の子会社(株)地球クラブを通じて、コープデリグループの店舗をはじめとした各施設や、コープデリでんき「再生可能エネルギー100%メニュー」の電気として契約した組合員のご家庭に届けられています。



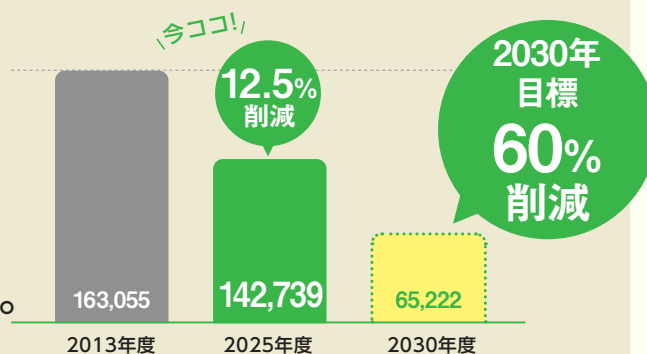
CLOSE UP

目標の到達状況

2030年目標

事業から排出される
温室効果ガスを

2013年度比60%削減します。

※単位:t-CO₂(CO₂排出量)

コープデリグループは、SDGsへのさらなる貢献を目指して、2022年に温室効果ガス削減目標を全面的に見直しました。それまで掲げてきた「2030年度に2013年度比40%削減」という目標を引き上げ、新たに「2030年度のありたい姿」として、CO₂排出量を2013年度比60%削減する目標を定めました。さらに、長期目標として「2050年CO₂排出量実質ゼロ」を目指すことも宣言しています。

この削減目標を着実に達成していくため、コープデリグループでは、温室効果ガス削減につながる取り組みとして、次の3つを施策の柱に据えています。

1. 電気使用量の削減
2. 電動化を主とした車両燃料の低炭素化
3. 再生可能エネルギーの創出と使用の拡大

これら3つの柱に基づく取り組みは、会員生協およびグループ会社それぞれが、事業の特性や設備の状況に合わせて、毎年度、具体的な削減計画のロードマップを策定し、着実に取り組んでいます。グループ全体で進捗を共有し、確認し合える体制を整えることで、2030年度の目標、そして2050年の実質ゼロという長期ビジョンの実現に向けて、本質的な温室効果ガス削減を目指します。

詳細はこちら



車両燃料の低炭素化

EV(電気自動車)の導入



EV車両導入台数

61台

コープデリグループでは「2030年温室効果ガス削減目標の達成に向け重点的に取り組む3つの柱」の1つとして、電動化を主とした車両燃料の低炭素化を掲げています。

宅配のトラックをはじめ合計8,000台以上の車両を運行していますが、2025年度はグループ全体で61台の電気自動車(EV)の導入を進めました。おもに営業活動などで使用する軽自動車の入れ替えを進めながら、EVトラックの導入も順次開始しています。



目標達成のためのロードマップを策定

2030年温室効果ガス削減計画



コープデリグループでは2030年温室効果ガス削減目標(2013年度比60%削減)の達成に向け2023年度から2030年度までの期間に重点的に取り組む施策を計画化したロードマップを策定しました。

目標達成に向けて「電気使用量の削減」「電動化を主とした車両燃料の低炭素化」「再生可能エネルギーの創出と使用の拡大」を施策の3つの柱に設定し、推進しています。

	2025年度実績	2026年度計画
電気使用量の削減	● 冷蔵・冷凍・照明機器の更新 ● 自然冷媒の導入	● 宅配ルート効率化 ● 冷蔵・冷凍・照明機器の更新 ● 自然冷媒の導入 ● 地域資源を活用した再エネの調達
車両燃料低炭素化	● 車両EV化61台	● 車両EV化76台
再エネ創出・使用	● 自家消費太陽光発電4施設の設置	● 自家消費太陽光発電3施設の設置

05 世界中の人々の平和で 健康な生活のために



次世代へ平和をつなぐ

若い世代が被爆や戦争の体験を知り・学び・継承するための取り組みを地域の諸団体とともに進めています。

人権が守られ、飢餓や貧困のない
平和な世界の実現のために活動します

1

飢餓や貧困をなくし、子どもたちが健やかに暮らせる世界の
実現に貢献します。

2

世界のあらゆる人に目を向け、
人権を守る取り組みを進めます。

3

核兵器廃絶と戦争のない平和な世界を目指し、
平和について知り・学び、次世代へ伝える活動を進めます。

コープの牛乳で子どもたちを笑顔に

ハッピーミルクプロジェクト



寄付額累計

3億 3,184万 1,763円

コープデリグループは、2008年からコープの牛乳の売り上げの一部をユニセフに寄付し、アフリカの子どもたちの栄養改善を応援する「ハッピーミルクプロジェクト」に取り組んでいます。2020年度からは、西アフリカのコートジボワール共和国を支援し、栄養不良などにより命の危機にさらされている子どもたちを守るための活動を行いました。

2026年度からは支援先を西アフリカのベナン共和国とし、母親たちへの栄養・育児の知識を広げ、子どもたちの栄養改善を進めます。2025年度の寄付金は2,245万4,600円となりました。



©UNICEF Benin



2026年度から
ベナン共和国を支援します

詳細はこちら



ペットボトルキャップや不要な衣類で支援

世界の子どものワクチン支援



寄付によってポリオワクチンを摂取できる子どもの人数

36万8,465人

(ポリオワクチン1本20円で換算)

子どもの命を脅かす感染症は、開発途上国ではいまだに猛威をふるい、ワクチンがあれば助かる小さな命が1日に4,000人も失われています。

コープデリグループは組合員から回収したペットボトルキャップの売却益や、株式会社スクロールとともに実施している衣料品回収プロジェクトによる収益の一部を、認定NPO法人 世界の子どものワクチンに 日本委員会(JCV)に寄付しています。

2025年度のペットボトル回収による寄付金額は279万9,700円、衣料品回収プロジェクトによる寄付金額は456万9,600円でした。これはポリオワクチンに換算すると36万8,465人分となります。

ペットボトルキャップ回収量については22ページをご覧ください。また、衣料品回収プロジェクトではJCVのほかに、認定NPO法人Learning for Allへ407万7,500円を寄付しています。



人権尊重の取り組みをいっそう推進するために

コープデリグループ人権方針



コープデリグループはこれまでも、核兵器廃絶や平和活動、消費者の権利を守る運動などを組合員とともに進めてきました。国連でSDGsが採択されてからも、エシカル消費、地球温暖化対策、子どもの貧困対策、ジェンダー平等、地域社会づくり、健康・福祉・助け合いなど、人と社会を大切にする取り組みを広げています。

人権尊重の取り組みをいっそう推進するため、コープデリグループ人権方針を制定しました。事業や活動による人権課題を見つめ直し、役職員・組合員が一体となって、取引先や地域の諸団体などと協働して、人権が尊重される持続可能な社会の実現に貢献することを目指します。



コープデリグループの人権方針はこちら



平和な世界の実現のために

平和について知り・学び、次世代へ伝える活動

コープデリグループでは、核兵器廃絶を目指す取り組み、被爆や戦争の体験を知り・学び、継承する取り組みを、他生協・諸団体・行政・次世代などとともに、協力・連携して進めています。地域に残る戦争の記憶や記録を学び、平和の尊さを次世代へ伝えるため、学びの輪を広げています。



コープみらい

12月5日(金)に広島市より配付を受けた「被爆アオギリ二世」の苗木を植樹しました。原子爆弾投下による甚大な被害を受けながらも奇跡的に生き延びたアオギリを由来とする苗木は、「命の尊さ」「平和の尊さ」の象徴です。核兵器廃絶と平和への願いを新たに、次世代へ「平和の尊さ」をつないでいきます。



いばらきコープ

9月13日(土)、筑波海軍航空隊記念館(笠間市)にて、第3回「いばらきコープ平和のつどい」を開催しました。ピースアクションの参加者による報告では、現地を訪れた親子がそれぞれの言葉で平和への思いを語りました。また、記念館のガイドツアーを通じて地元の戦争遺構を見学し、参加者同士で平和への思いを共有しました。



とちぎコープ

10月13日(月)、宇都宮中心部の戦災遺構めぐりを開催しました。子どもを含めた総勢14名が、身近な場所の戦災遺構の前に、ガイドや語り部の話に引き込まれ、聞きいっていました。11月3日(月)には映像と語りで学ぶ「宇都宮空襲戦跡めぐり」を実施し、語り部の朗読による紙芝居風スライドの上映などで、宇都宮空襲被害の実情を学びました。



コープぐんま

8月17日(日)、平和の大切さについて改めて考え次世代に伝えていくことを目的として、映画「戦雲-いくさふむ-」上映会を開催しました。会場のエントランスでは、渋川平和委員会より提供された戦時下の貴重な資料の展示も行われ、参加者が当時の実態に触れる場となりました。



コープながの

戦時中、志半ばで亡くなった若い画学生たちの絵画や遺品が並ぶ「戦没画学生慰霊美術館 無言館」(上田市)の組合員見学会を実施しています。見学会参加者は、戦地からの手紙や生前、愛用していた品などの展示を見て、生きて絵を描くことを夢見ながら戦場へ赴いた彼らの思いを感じ取り、平和の大切さを考える貴重な時間となっています。



コープデリにいがた

8月20日(水)、3名の語り部をお招きした講話企画を開催しました。直江津捕虜収容所のお話や、第二次世界大戦当時の少年の目線、長岡空襲の罹災体験など、体験者の生々しい証言から、戦争という行為の愚かさや平和の尊さを噛みしめる貴重な時間となりました。



子ども平和新聞プロジェクト

被爆・戦後80年の節目となる2025年。子どもたちが平和についてより深く考えるきっかけをつくり、戦争の記憶や記録、平和への思いを次世代に継承することを目指して「子ども平和新聞プロジェクト」を実施しました。

子どもたちが、地域の新聞記者から教わりながら、新しい「見方」や「考え方」を身につけながら、自ら取材し、新聞を作成しました。

子ども
平和新聞PJは
こちら →



ピースアクション

毎年、沖縄、広島、長崎で開催される「ピースアクション」に、会員生協の組合員や子どもたちが参加しています。現地でのフィールドワークや戦争体験者の証言を通じて学んだことは、それぞれの生協で開催される報告会を通じて広く共有し、平和を願う活動の輪が地域へと広がっています。

ピースアクションinヒロシマ・ナガサキは広島・長崎両県生協連、日本生協連とともに、被爆体験の継承や核兵器のない世界への思いを共有する場として、1978年から毎年開催しています。「被爆の証言」や「碑めぐり」、「子ども平和会議」への参加など、全国の生協の組合員とともに一体感をもって平和について学び、「次世代への継承」につなげることができました。



NPT再検討会議代表派遣

2026年4月から5月、米国ニューヨークの国連本部で第11回NPT(核兵器不拡散条約)再検討会議が開催されました。これにあわせて生協代表団が結成され、コープデリグループからも代表者を派遣しました。平和行進への参加や会議傍聴、国連原爆展などを通じ、被爆者とともに核兵器廃絶への願いを世界に発信し、次世代へ継承していくことの大切さをあらためて示しました。



サステナビリティデータ

組合員の暮らしを支え、地域社会や地球環境に貢献するため、事業と活動の両面からサステナビリティの取り組みを進めています。本ページでは、組合員をはじめ、地域社会や取引先など多くのステークホルダーとともに取り組んだ、環境、社会、商品・品質、組合員活動などに関する主な成果を、2025年度のデータとして整理し、取り組みの広がりと進捗をお伝えします。

コープの産直産地・生産者団体数

合計

521



組合員の声



合計

145,971件

リサイクル回収量



合計

44,290トン

フードバンクなどへの食品寄贈量



合計

88.4トン

(フードドライブ活動・物流予備品の合計)

コープデリ商品検査センター見学者数

12,563人



2025年度組合員募金額

合計

3億9,611万7,740円



産直の概況

	産地・生産者団体数	産直供給高(億円)	産直構成比(%)
農産物	409産地	296	50.1
畜産	35団体	188	52.1
米	25団体	150	56.6
卵	35養鶏場	90	87.4
牛乳	5産地	4	2.3
水産	12産地	18	4.3



コープデリの「産直」は、生産者と組合員が顔の見える関係をつくり、安全性が確保され、おいしさと環境配慮を兼ね備えた、生い立ちがはっきりわかる農畜水産物をお届けする取り組みです。この産直の取り組みを通じて、持続可能な農畜水産物の生産を応援することを目指しています。

詳細はこちら



飼料用米の取り組み概況

	供給高(億円)	飼料用米重量(トン)	田んぼ面積(ha)
豚肉	112.1	2,520	420
牛肉	1.5	122	20
鶏肉	2.7	185	31
鶏卵	19.7	801	134
合計	136.0	3,628	605

認証マーク付き商品供給高

認証・認定マーク	認証・認定内容	供給高(億円)	認証・認定マーク	認証・認定内容	供給高(億円)
有機JAS	一定の基準で農薬や化学肥料を使用しないで作られた農産物とその製品です。	41.0	レインフォレスト・アライアンス	人と自然にとってより良い未来を築くのに適した方法で栽培されたことを意味します。ra.org/ja	11.7
MSC	この水産物は、漁業に関するMSCの環境基準に則り、第三者に認証された漁業で獲られたものです。msc.org	62.1	国際フェアトレード	開発途上国から原料や製品を不当に安く買うのではなく、適正な価格で継続的に買い取る取引です。	0.9
ASC	環境や地域社会に配慮した養殖業につけられる認証マークです。		RSPO	「持続可能なパーム油」の生産・製造・流通・消費を目指す取り組みです。	26.8
BAP	持続可能で責任のある養殖水産物をお届けします。		FSC®	適切に管理された森林と、責任をもって調達された林産物に対する国際的な認証制度です。www.fsc.org	417.2
MEL	MELは、資源と生態系の保全に取り組む日本の生産者を認証しています。		エコマーク	生産から廃棄を通して環境負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品です。	474.8

寄付金付き商品などの状況

募金・寄付・取り組み名	寄付先	寄付金額(円)	寄付金の活用内容
ハッピーミルクプロジェクト※	日本ユニセフ協会	22,454,600	「ユニセフ・コートジボワール共和国指定募金」 「ユニセフ・アフリカ栄養危機緊急募金」
佐渡トキ応援お米プロジェクト	佐渡市トキ環境整備基金	2,148,456	佐渡市が行う「生きものを育む環境づくり」や 「環境にやさしい佐渡米づくり」
美ら島応援もずくプロジェクト	伊平屋村美ら島応援基金	2,072,297	島の海岸清掃など自然環境の保護や、もずく産 業の活性化
grow(グロー)	grow基金	1,141,658	メキシコの農園労働者への医療サービス提供や 子どもたちの教育などの支援
北カリマンタン マングローブ基金	北カリマンタンマングローブ基金	322,818	エビの産地であるインドネシア北カリマンタン 州の環境と未来の水産資源を守るマングローブ 植樹活動
インドネシア・エビ養殖業 改善プロジェクト	WWFジャパン	870,072	(WWFジャパン、WWFインドネシアとBOMAR 社の協働による)環境と社会に配慮した責任ある エビ養殖業への転換の取り組みを支援
コアノンスマイルスクール プロジェクト	日本ユニセフ協会	1,073,156	アンゴラ共和国の子どもたちが楽しく学べる環 境づくり(学校のトイレ・水の整備、教師の育成)
CO・OP×レッドカップ キャンペーン (2025年10月1日～11月10日)	国連WFP協会	881,426	ミャンマー連邦共和国の子どもたちに学校給食 を届ける取り組み
洗剤環境寄付キャンペーン	WWFジャパン	430,047	インドネシア各地の小規模パーム農園の持続可 能な生産などを推進するプロジェクトを支援
パラノルディックスキー 応援キャンペーン	日本障害者スキー連盟	269,692	日本障害者スキー連盟ノルディックスキーチ ームの次世代を担うジュニアチーム(10～20代) の合宿・国際大会遠征支援など
スマイルグリーンプロジェクト	WWFジャパン	617,331	ブラジルのアトランティックフォレストで実施す る、森林再生などの活動を応援
ピンクリボン運動 (2025年9月1日～10月20日)	認定NPO法人J.POSH (日本乳がんピンクリボン運動)	222,216	乳がんに対する啓発活動や患者や家族の支援

※この寄付金額には組合員からの募金を含みます

緊急支援募金の実施状況

(円)

生協名	岩手県大船渡市 山林火災支援募金 (2025年3月24日～4月13日)	ミャンマー地震 緊急支援募金 (2025年4月7日～5月11日)	アフガニスタン地震 緊急支援募金 (2025年9月15日～10月12日)	令和6年能登半島地震および 能登半島豪雨災害募金 (2025年12月1日～2026年1月11日)
コープみらい	67,790,379	49,150,014	5,224,609	50,886,898
いばらきコープ	10,105,899	5,788,526	577,722	6,313,895
とちぎコープ	6,031,871	3,104,892	347,960	3,991,943
コープぐんま	5,440,825	3,543,691	374,309	3,619,126
コープながの	21,723,349	9,838,883	1,256,491	10,891,015
コープデリにいがた	12,169,604	6,605,391	674,863	6,409,533
合計	123,261,927	78,031,397	8,455,954	82,112,410



【岩手県大船渡市山林火災支援募金】
岩手県生協連への贈呈



【アフガニスタン地震緊急支援募金】
日本ユニセフ協会への贈呈



能登半島、珠洲市内の仮設住宅を訪問し、
あたたかな食事を提供

会員生協募金・寄付状況

(円)

生協名	ユニセフ募金	ふくしま復興応援募金	平和募金・平和の旅募金	はがき・切手回収
コープみらい	30,139,671	17,417,649	3,121,333	20,015,220
いばらきコープ	1,187,421	2,456,379	588,483	1,873,696
とちぎコープ	404,146	1,167,117	19,200	1,452,640
コープぐんま	770,214	1,321,853	241,095	1,485,775
コープながの	1,359,210	3,296,025	-	9,751,602*
コープデリにいがた	707,693	1,746,945	250,736	3,481,949
合計	34,568,355	27,405,968	4,220,847	38,060,882

※コープながのは、特定NPO法人ハンガー・フリー・ワールドの「書き損じはがき回収キャンペーン」に取り組んでいます

「組合員の声」受付件数

受付方法	声の経路	件数(件)	前年比(%)
こえのポスト(宅配)	組合員が書いたカード・eフレンズで寄せられる声	65,499	180.3
こえのポスト(店舗)		1,002	85.9
観たこと聞いたことカード	職員が気づいたことを書いたカードで寄せられる声	50,944	90.3
お問合せ案内センター	電話・メールで寄せられた声	18,658	69.4
商品お申し出受付カード	商品に対するお申し出・ご指摘	9,868	88.7
合計		145,971	110.6

商品検査実績

(検体数)

		日本生協連 商品検査センター	コープデリ 商品検査センター	合計
微生物や 食品中に残存する 化学物質などの検査	微生物	1,378	30,017	31,395
	残留農薬	1,598	729	2,327
	残留動物用医薬品	295	81	376
	食品添加物	141	82	223
	カビ毒	0	77	77
	ヒスタミン	26	437	463
	放射性物質	253	498	751
食品の品質や 規格成分の検査	栄養成分・品質	1,263	1,049	2,312
	内容量	38	0	38
	官能	2,388	2	2,390
	品温	0	60	60
食品表示を確認する検査	特定原材料	1,464	382	1,846
	遺伝子組換え	3	25	28
	品種・肉種判別	74	131	205
	産地判別	0	8	8
施設衛生検査		0	155	155
その他(上記以外)		222	187	409
合計		9,143	33,920	43,063

検査内容が重複しないよう、日本生協連の商品検査センターと連携して取り組んでいます

リサイクル資源回収量

	宅配のみ		宅配・店舗				店舗のみ
回収品目	商品と カタログの お届け用ポリ袋	商品カタログ・ チラシ	飲料用紙パック	ペットボトル・ ペットボトル キャップ	食品トレー	たまごパック	アルミ缶
回収量 (kg)	586,955	40,345,641	930,218	1,471,427	555,804	212,613	187,364
前年比 (%)	96.1	96.1	95.7	100.8	93.8	91.9	98.4

レジ袋辞退率

	コープ みらい	いばらき コープ	とちぎ コープ	コープ ぐんま	コープ ながの	コープデリ にいがた	合計
レジ袋辞退率 (%)	85.4%	85.2%	83.0%	82.9%	89.0%	-	85.2%

※店舗事業での数値です。コープデリにいがたに店舗はありません

食品リサイクル率

	コープ みらい	いばらき コープ	とちぎ コープ	コープ ぐんま	コープ ながの	コープデリ にいがた	合計
リサイクル率 (%)	94.7	100.0	100.0	60.5	73.0	-	93.5

※店舗事業でのリサイクル率です。コープデリにいがたに店舗はありません

ダイバーシティ&インクルージョンの取り組み状況

	コープ みらい	いばらき コープ	とちぎ コープ	コープ ぐんま	コープ ながの	コープデリ にいがた	コープデリ 連合会
女性職員比率 (%)	20.9	25.5	24.7	31.0	24.5	17.9	32.5
女性管理職比率 (%)	10.8	15.1	9.0	5.6	13.4	2.1	18.4
育児休職 (人)	68	11	6	17	27	5	6
男性職員の 育児休職取得率 (%)	113※	100	100	100	75	100	75
育児時短 (人)	82	15	6	14	21	7	44
子の看護休暇 (人)	198	35	16	11	33	12	59
介護休暇・休職 (人)	8	3	4	4	1	1	4
障がい者雇用率 (%)	2.89	3.35	3.29	3.08	3.13	3.64	3.49
定年後再雇用 (人)	45	30	15	25	10	5	12

※2024年度に配偶者が出産した職員が、2025年度に育児休職を取得した人数も含まれるため、100%を超えています

コープデリグループの
ダイバーシティの推進概況は
こちら



ガバナンス・内部統制

コープデリグループは、ステークホルダーとの協同・連携を重視し、透明性、公正さ、適正さを確保しながら、法令遵守および人権尊重を含む健全な経営基盤のもと経営の効率性を高め、健全経営を全うすることをガバナンスの目的としています。

コープデリグループにおけるガバナンス

会員生協とコープデリ連合会がそれぞれの「経営責任と経営相互牽制責任」および「役割分担」を明確にして、健全経営を全うします。コープデリ連合会が受託した業務の会員生協から連合会への監督牽制機能が有効に機能するように、理事会をはじめ、各種会議、委員会を運営しています。

コープデリ連合会総会は組織の最高議決機関として、毎年6月に開催し、事業報告や事業計画・予算、役員（理事・監事）選任などの議案を議決します。

業務執行体制

理事会は、コープデリ連合会総会の決定を受けて、戦略的な経営意思決定としての基本政策および業務執行に係る重要な事項について、隔月で開催し、審議・決定を行います。

経営執行の迅速化に対応して、毎週、常任理事会を開催し、コープデリグループの政策・事業・方針・業務運営などに関する重要事項の協議・議決と連帯政策や地域政策、会員生協間の交流を図っています。

監事は、事業の適正さを確保するため、定款および監事会規則・監事監査基準に基づき、監査を実施しています。会計監査は、監査法人と協力しながら進めています。

専務理事の諮問機関として商品・宅配・店舗の3委員会を設置しています。各会員生協の組合員理事で構成し、消費者・組合員としての見識のもと、各事業に関する政策協議を行います。

サステナビリティ推進体制として、コープデリ連合会では「コープデリグループのSDGs重点課題～2030年までの長期目標と中期方針～」に沿って、環境・社会・ガバナンスに関する課題・目標を常任理事会で確認し、進捗管理を行っています。

内部統制について

コープデリグループ・コープデリ連合会は、「内部統制に関わる基本方針」を定め、7つの体制の整備を進めています。また運用状況を毎年点検し強化を図っています。

7つの体制

1	コンプライアンス体制
2	情報管理体制
3	リスク管理体制
4	効率性確保体制
5	グループ会社など業務適正確保体制
6	監事監査確保体制
7	監事への報告に関する体制

コンプライアンスの推進について

「コンプライアンスの考え方」「行動指針」「行動規範」を制定し、全体学習（情報セキュリティを含む）を全事業所で実施しています。一方、職員の行動規範に逸脱する行為などに迅速・適切に対応するためにコンプライアンス相談室（ヘルプライン）および公益通報「外部窓口」を設置し運用しています。

人権尊重について

人権尊重を重要な経営課題の1つと位置づけ、役員、組合員、取引先・委託先など事業と活動に関わる人々の人権に配慮した取り組みを進めています。人権方針に基づき、差別・ハラスメントの防止、安全で働きやすい職場環境の整備、多様性の尊重に取り組み、教育・周知を通じて理解浸透を図るとともに、相談・通報窓口の運用により、人権に関わる課題の把握と改善に努めています。

リスク管理について

リスク管理については、毎年事業経営に影響を与えるリスクを洗い出し、リスク評価から重点リスクを設定し、対応策の進捗を点検しています。

2025年度は、コープデリグループ全体で713項目のリスクを洗い出し、評価を行い、136項目の重点リスク（月次でのリスク管理）を設定しました。また、「安全運転」「情報セキュリティ」「食品の安全」「コンプライアンス」「人員不足・人材育成」「自然災害」の6つを共通重点リスクとして設定し、進捗管理を進めています。

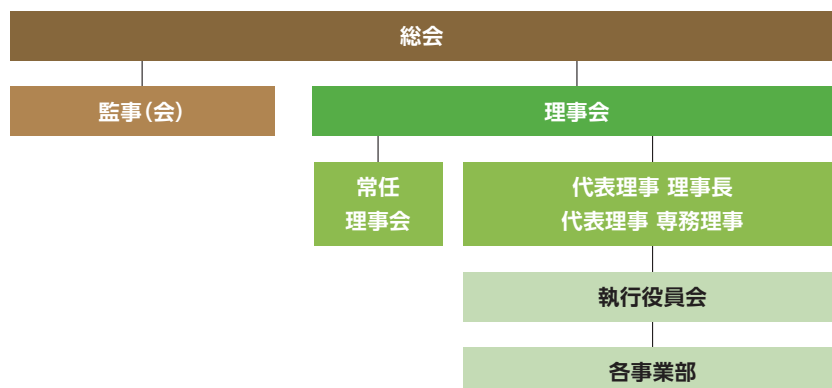
危機管理について

重大な事故が発生した場合に、その情報がトップに迅速・的確に報告され、適切に対応できるよう「クライシス・重大事故等対応規程」を整備し、運用しています。また、危機管理に関わる連絡・報告、対策本部の運営、広報などに関わる具体的な手順を整備し運用しています。さらに、不正アクセスなどのサイバー攻撃から組織を守ることを目的としたサイバーセキュリティ対策や、個人情報を含む機密情報の保護を目的とした情報漏えい対策など、情報セキュリティの強化を実施しています。

地震・自然災害への対応

地震や台風・風水害・雪害などの大規模災害は、あらゆるステークホルダーに甚大な被害を与える可能性があります。コープデリ連合会では、会員生協、グループ会社とともに大規模な災害で被害を受けた場合でも、早期に事業を再開・継続できるよう「事業継続計画書」の補強や、地震や自然災害を想定した訓練、職員の安否確認訓練、無線通信訓練などを定期的に実施しています。

コープデリ連合会組織図



コープ(生協)について

コープ(生協)は、消費者一人ひとりが、くらしのさまざまな願いを協同し、実現するために、事業や活動を通して助け合う消費者の自発的な組織です。
日本では「消費生活協同組合法」に基づいて設立され運営されています。
一人ひとりが「出資金」を出し、事業や活動の「運営」に参加・参画し、「利用」する組織です。

コープ(生協)とは、正式には「生活協同組合」のことです。略称として、「コープ」がよく使われますが、これは協同組合を表す英語のCo-operativeから来ています。

生活協同組合は、農業協同組合、漁業協同組合、労働者協同組合などと同じ「協同組合」です。

世界に多種多様な協同組合があり、国際協同組合同盟(International Co-operative Alliance, ICA)が定めた協同組合の共通のルール「協同組合原則」にのっとり運営されています。

協同組合は、「共同で所有し民主的に管理する事業体を通じ、共通の経済的・社会的・文化的ニーズと願いを満たすため、自発的に手を結んだ人々の自治的な組織である」と定義されています。

共通のニーズと願いを組合員が共同で所有する事業を通して実現する点や、管理は民主的に行われていなければならないという点が特徴となっています。



出資

組合員一人ひとりが持ち寄る大切な出資金は、安全で安心できる商品づくりや宅配・店舗の運営など組合員の願いを実現するために活用されています。



利用

組合員は、宅配や店舗で商品を購入したり、さまざまなサービスを利用したりします。

3つの柱



運営

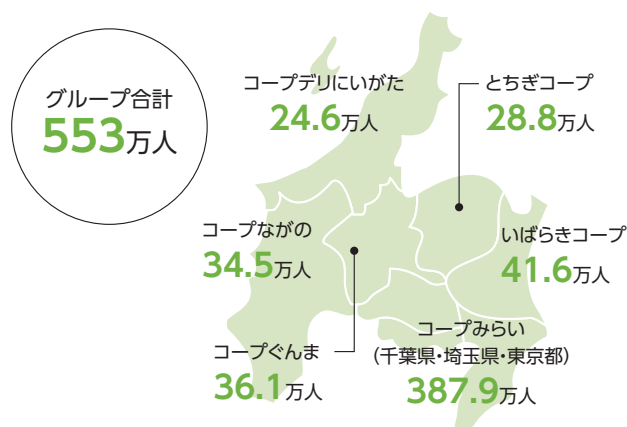
運営の主役は「組合員」です。組合員の声をさまざまな場で受け止め、事業や活動に生かしています。また、各地域で選ばれた組合員の代表である総代は、いろいろな場面で意見を出して話し合い、通常総代会では生協の事業計画や予算などを議決します。

コープデリグループについて

コープデリグループとは

コープデリグループは、6つの生協（コープみらい、いばらきコープ、とちぎコープ、コープぐんま、コープながの、コープデリにいがた）とコープデリ連合会、そのグループ会社で構成されています。

コープデリグループ会員生協組合員数



会員生協とコープデリ連合会の関係

コープデリグループの6つの生協は、コープデリ連合会に出資し加盟する「会員生協」として、コープデリ連合会に参加しています。会員生協とコープデリ連合会は、同じ理念とビジョンのもと、それぞれ独立した法人として事業や活動を行っています。

商品・物流・生産・システム・経理・人事教育などの共通基盤を整備し、宅配事業・店舗事業・サービス事業などの本部機能を持つコープデリ連合会を共同でつくり上げています。

コープデリ連合会は関東信越の1都7県、553万人を超える組合員のくらしを支える生協として日本最大規模の事業連合です。

コープデリ連合会の概況

(2026年3月20日現在)

名称	コープデリ生活協同組合連合会
設立年月日	1992年7月21日
会員数	6会員
事業エリア	1都7県(千葉県/埼玉県/東京都/茨城県/栃木県/群馬県/長野県/新潟県)
事業高	4,722億4,741万円
出資金	433億3,200万円
職員数	1,305人 (正規職員690人、パート職員615人)
本部所在地	〒336-8526 埼玉県さいたま市南区根岸1-4-13
TEL	048-839-1371(代表)

役員体制

(法定役員の常勤役員を中心に記載しています)

(2026年6月現在)

代表理事 理事長	熊崎 伸
副理事長	河田 喜一
副理事長(非常勤)	登坂 康史
代表理事 専務理事	大川 昌彦
常任理事	多田 眞
	西野 通広
	山口 真司
	飯島 幸治
常務理事 (機関運営・総合企画・システム管掌)	風間 徹
	鳥羽 治明
	長島 淳一
常務理事(宅配事業本部長)	成田 章二
常務理事(管理・開発管掌)	圓尾 佐智子
常勤理事(福祉事業担当)	稲生 修
常勤監事	

グループ会社について

株式会社コープデリ保険センター	株式会社コープデリフーズ	株式会社協同開発
コープデリ酒類販売株式会社	株式会社コープミート千葉	株式会社コープデリサービス
協栄流通株式会社	株式会社コープワーキングサポート	株式会社トラストシップ

コープデリグループの事業と会員生協の活動

コープデリグループの事業

宅配事業

「つかうほど、じぶんらしく。」をブランドメッセージに、週1回決まった曜日・時間帯にご自宅の玄関先まで、6,000品目以上の品ぞろえから、ご注文いただいた食品や日用品をお届けする「ウィークリーコープ」、週3日からお弁当や料理キットをお届けする「デイリーコープ」の宅配サービスなどを行っています。



店舗事業

“おいしさと安心を、うれしい価格で。”を事業目標に、スーパーマーケットタイプとミニ店舗が144店舗(2026年3月20日現在)*、さらにネットスーパーや移動店舗といった業態を展開しています。コープ商品や産直商品、店内加工品など、「コープならでは」のこだわり商品をそろえ、魅力的な売り場づくりに取り組んでいます。



※コープデリにいがたに店舗はありません。

サービス事業

くらしをもっと楽しく、快適に。(株)コープデリサービスを通して、自分らしいくらしの応援をしています。チケット部門は心を動かすエンターテインメントを提供し、くらしのサービス・ハウジング部門は、便利で快適なくらしをサポートします。葬祭部門は故人への感謝とご遺族の新たな生活を支援します。



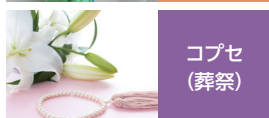
チケット



くらしのサービス



ハウジング



コブセ(葬祭)

※生協によって取り扱いのないサービスがあります。

福祉事業

コープみらい、いばらきコープ、コープぐんま、コープながのの4会員生協で展開しています。ケアプランの作成、ホームヘルパーの派遣、デイサービスの実施、サービス付き高齢者向け住宅の運営などを通じて、「住み慣れた地域で安心して暮らしたい」という組合員の願いに応えます。



※生協によって取り扱いのないサービスがあります。

※とちぎコープの福祉事業は、移管先である「社会福祉法人ふれあいコープ」が担っています。

保障事業

CO・OP共済は、生協の事業として組合員の声をベースに、手ごろな掛金、いざという時に役立つ保障内容、わかりやすい手続きといった改善を常に進めながら、組合員とその家族に寄り添い、役立ち続ける事業を目指しています。また、グループ会社の(株)コープデリ保険センターを通じて、さまざまな保障ニーズに対応する保険商品を提供しています。

商品事業

コープデリ連合会は、会員生協組合員から寄せられた声と想いをかたちにしたプライベートブランド(PB)であるコープ商品を日本生活協同組合連合会と共同で開発しています。また産直を通じて、持続可能な農畜水産物の生産を応援しています。自前の商品検査センターは商品の品質を科学の目でチェックしています。



エネルギー供給事業

組合員のくらしと未来にやさしいエネルギーをお届けするために、「再生可能エネルギー100%メニュー」と、より家計にやさしい「ベーシックメニュー」の2つのメニューからなる「コープデリでんき」を組合員に提供しています。その一部はコープデリグループの事業所の太陽光発電施設の電気です。

また、一部地域では、経済メリットを追求した都市ガス事業「コープデリガス」を提供しています。



※コープながのでは「ベーシックメニュー」の取り扱いはありません。
※コープデリにいがたにはエネルギー供給事業はありません。
※コープデリガスは地域限定です。

物流・生産

物流部門は、安全、効率、品質を最重点に商品を集品・分荷し、会員生協の宅配センターや店舗に届けています。自動化システムの積極的な導入で、生産性の向上を図っています。

生産部門は安全、品質、衛生管理を徹底し、宅配・店舗向けの精肉商品と店舗向けの惣菜商品・ベーカリー生地を生産しています。(株)コープデリフーズでは、桶川ミートセンター・IQFセンターに続いて、2025年度に桶川デリカセンターも食品安全マネジメントシステムの認証を取得しています。



コープデリグループ会員生協の活動

コープでは、くらしの中のさまざまな課題に関心を持ち、一人ひとりの力を寄せ合って協力し合うことで、くらしや地域をよりよくする活動に取り組んでいます。

食の取り組み

安全なものを安心して食べ、健康に暮らしたいという組合員の願いを実現するために、「食」に関するさまざまな取り組みを行っています。取引先を講師とした商品学習会や産地・工場の見学、生産者・メーカーとの交流会、調理など、組合員は関心を持ったテーマについて学んでいます。



地域社会づくりの取り組み

「誰ひとり取り残さない社会」を実現するためには、地域で人と人とのつながりをつくるのが重要です。行政や地域の諸団体と連携し、フードドライブやフードパントリー、地域の誰もが参加できる集いの場の提供、子育て中の人たちのネットワークをつくる子育てひろばなどの活動を行っています。



地球・未来を考える取り組み

地球温暖化や廃棄物、飢餓や貧困、紛争など、国境を越えてつながる問題の解決には、一人ひとりの行動が大切です。家庭での省エネや食品ロスの削減などを学び行動する「コープデリのエコ活」、自然の中で生物多様性などを学ぶ体験教室、平和を考える戦跡めぐり、飢餓や貧困の問題を考えその解決に参加できるハッピーミルクプロジェクトやユニセフ募金など、問題を知り、自分でできることを考え、交流する活動を行っています。



コープデリグループのサステナビリティサイト



コープデリグループのサステナビリティ
Instagram



【お問い合わせ先】

コープデリ生活協同組合連合会

サステナビリティ推進部

〒336-8526 埼玉県さいたま市南区根岸1-4-13
TEL. 048-839-1849 FAX. 048-839-1859



コープみらい いはらきコープ とちぎコープ コープぐんま
コープながの コープデリにいがた コープデリ連合会

コープデリグループ／サステナビリティレポート
読者アンケート

ぜひ、ご意見・ご感想をお寄せください。
来年度の制作の参考にさせていただきます。
(2026年10月31日まで)

